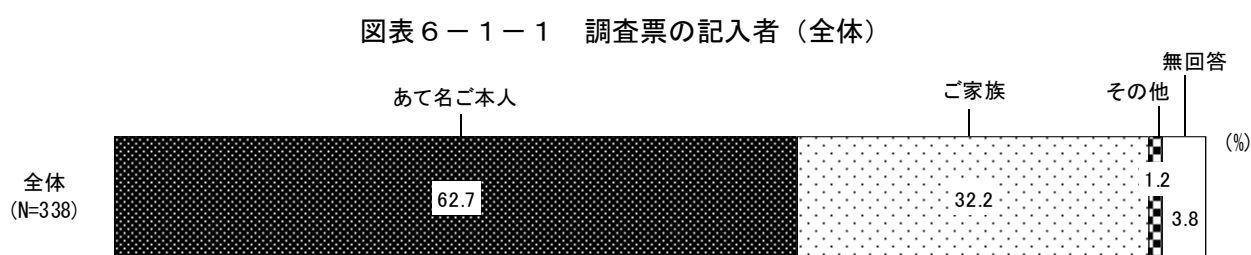


第6章 介護保険サービス未利用者調査

1 基本属性

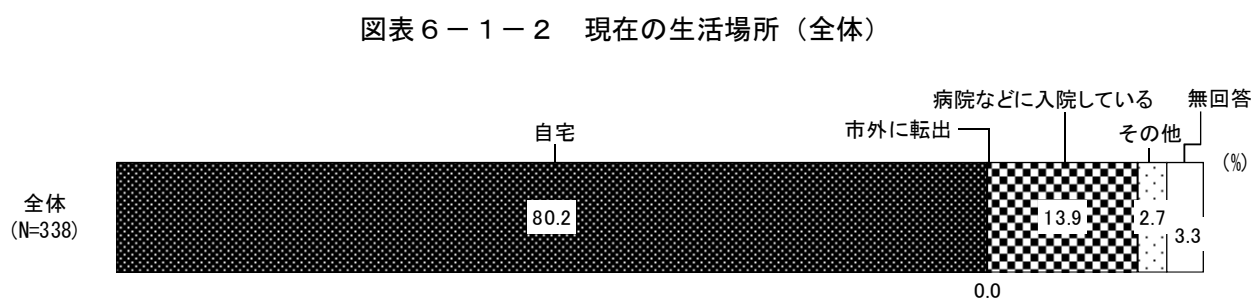
(1) 調査票の記入者 (F 1)

調査票の記入者は、「あて名ご本人」が62.7%、「ご家族」が32.2%となっている。(図表6-1-1)



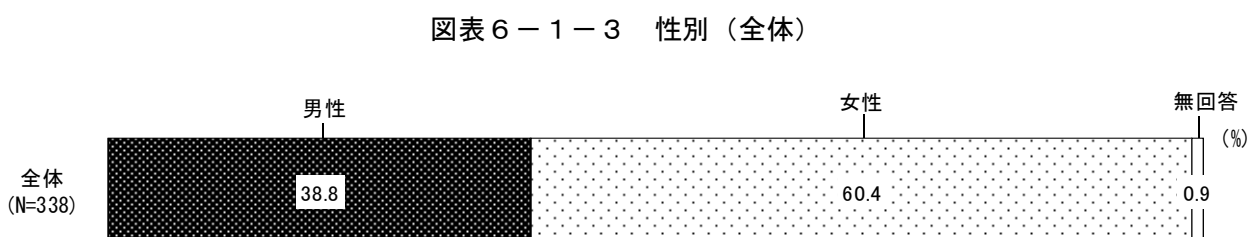
(2) 現在の生活場所 (F 2)

現在の生活場所は、「自宅」が80.2%、「病院などに入院している」が13.9%となっている。(図表6-1-2)



(3) 性別 (F 3)

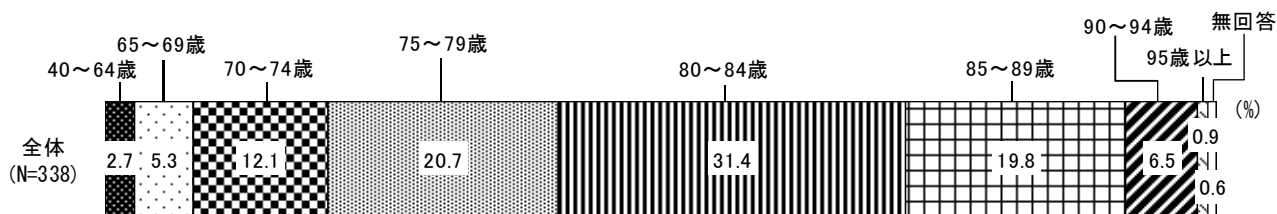
性別は、「男性」が38.8%、「女性」が60.4%となっている。(図表6-1-3)



(4) 年齢 (F 4)

年齢は、「40～64歳」が2.7%、「65～69歳」が5.3%、「70～74歳」が12.1%、「75～79歳」が20.7%、「80～84歳」が31.4%、「85～89歳」が19.8%、「90～94歳」が6.5%、「95歳以上」が0.9%となっている。(図表6-1-4)

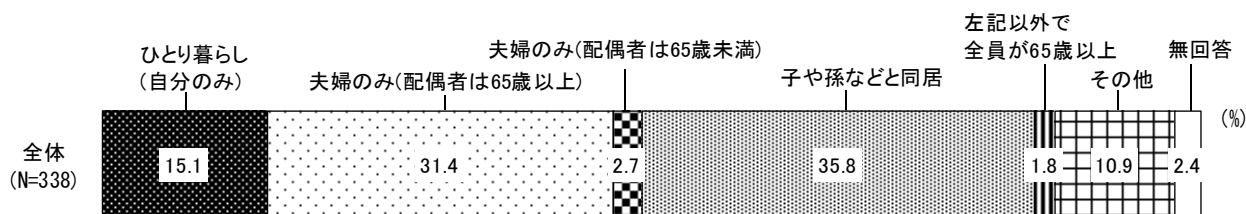
図表6-1-4 年齢 (全体)



(5) 世帯状況 (F 5)

世帯状況は、「子や孫など同居 (35.8%)」が最も多く、「夫婦のみ (配偶者は65歳以上) (31.4%)」、「ひとり暮らし (自分のみ) (15.1%)」が続いている。(図表6-1-5)

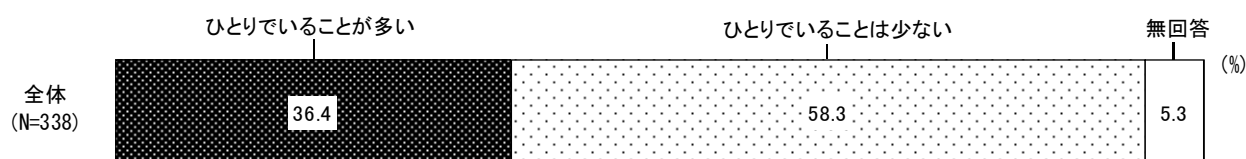
図表6-1-5 世帯状況 (全体)



(6) 日中独居 (F 6)

日中、ひとりでいることは、「ひとりでいることが多い」は36.4%、「ひとりでいることは少ない」は58.3%となっている。(図表6-1-6)

図表6-1-6 日中独居 (全体)



(7) 助け合っている身内や友人 (F7)

①助け合っている身内や友人の有無 (F7)

助け合っている身内や友人の有無は、「いる」が 59.5%、「いない」が 33.7%となっている。

(図表 6-1-7-①)

図表 6-1-7-① 助け合っている身内や友人の有無 (全体)

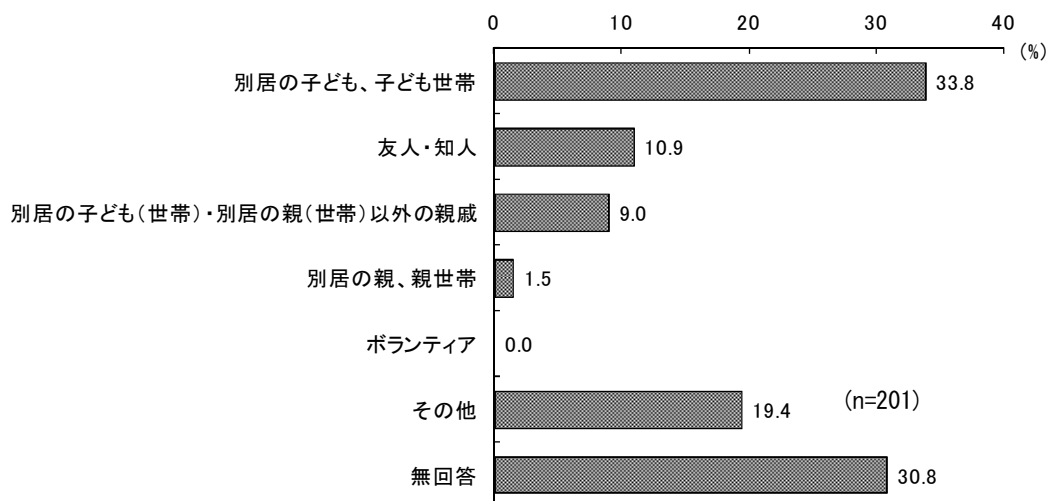


②助け合っている人との関係 (F7-1)

助け合っている身内や友人がいると答えた人にたずねた。助け合っている人との関係は、「別居の子ども、子ども世帯 (33.8%)」が最も多く、「友人・知人 (10.9%)」、「別居の子供 (世帯)・別居の親 (世帯) 以外の親戚 (9.0%)」が続いている。(図表 6-1-7-②)

図表 6-1-7-② 助け合っている人との関係 (全体：複数回答)

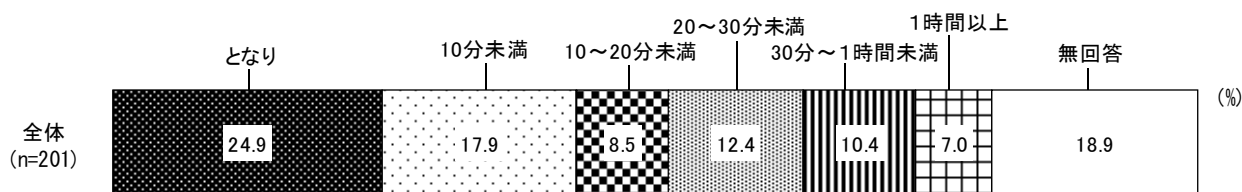
<助け合っている身内や友人がいると回答した人>



③一番よく行き来する人との距離（F7-2）

助け合っている身内や友人がいると答えた人にたずねた。一番よく行き来する人との距離は、「となり（24.9%）」が最も多く、「10分未満（17.9%）」、「20～30分未満（12.4%）」、「30分～1時間未満（10.4%）」が続いている。（図表6-1-7-③）

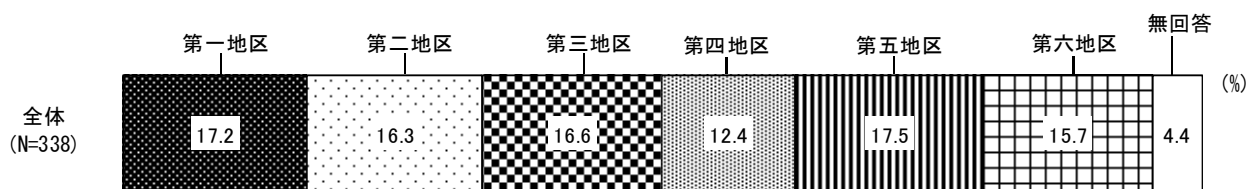
図表6-1-7-③ 一番よく行き来する人との距離（全体）
 <助け合っている身内や友人がいると回答した人>



(8) 居住地域（F8）

居住地域は、「第一地区」が17.2%、「第二地区」が16.3%、「第三地区」が16.6%、「第四地区」が12.4%、「第五地区」が17.5%、「第六地区」が15.7%となっている。（図表6-1-8）

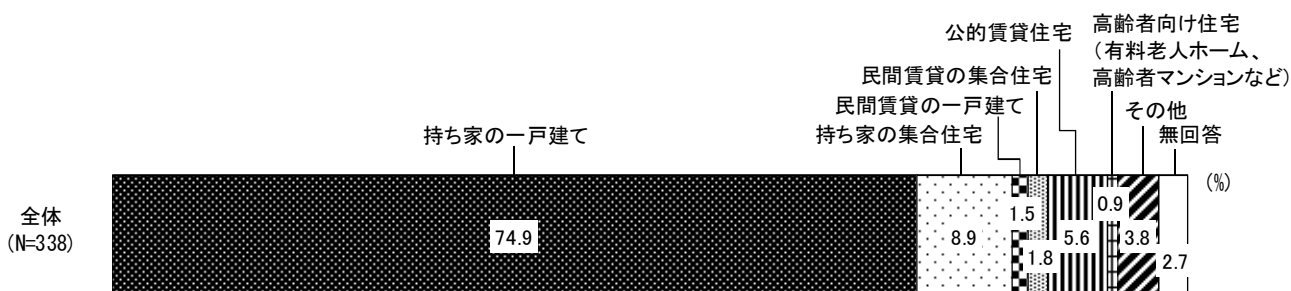
図表6-1-8 居住地域（全体）



(9) 居住形態（F9）

居住形態は、「持ち家の一戸建て（74.9%）」が最も多く、「持ち家の集合住宅（8.9%）」、「公的賃貸住宅（5.6%）」が続いている。（図表6-1-9）

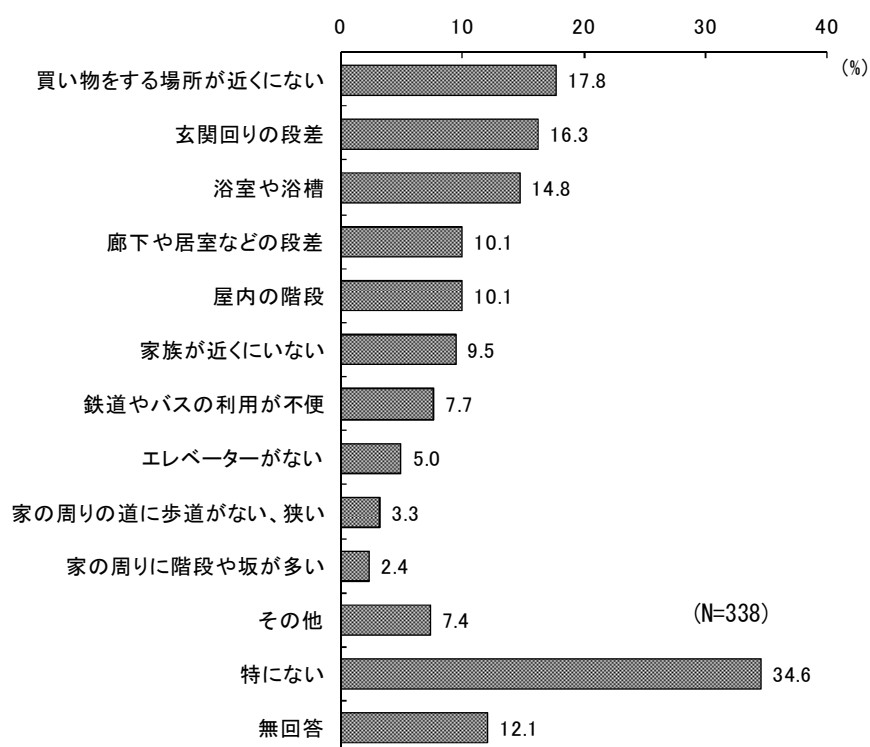
図表6-1-9 居住形態（全体）



(10) 住まいや住環境で困っていること (F10)

住まいや住環境で困っていることは、「特にない (34.6%)」が3分の1を占めている。困っていることでは、「買い物をする場所が近くにない (17.8%)」が最も多く、「玄関回りの段差 (16.3%)」、「浴室や浴槽 (14.8%)」が続いている。〔前回：「特にない」31.6%、「玄関回りの段差」21.5%、「買い物をする場所が近くにない」20.1%〕 (図表6-1-10)

図表6-1-10 住まいや住環境で困っていること (全体：複数回答)



2 医療の状況について

(1) 現在治療中の病気の有無（問1）

現在治療中の病気の有無は、「ある」が90.5%、「ない」は6.2%となっている。

性別でみると、男女でほぼ同傾向となっている。

年代別にみると、各年代ともに、ほぼ同傾向となっている。

要介護度別にみると、ほぼ同傾向となっている。（図表6-2-1）

図表6-2-1 現在治療中の病気の有無（全体・性別・年代別・要介護度別）

		（%）		
		ある	ない	無回答
全 体 (N= 338)		90.5	6.2	3.3
性 別	男 性 (n= 131)	91.6	4.6	3.8
	女 性 (n= 204)	90.2	7.4	2.5
年 代 別	40～64歳 (n= 9)	100.0	0.0	0.0
	65～74歳 (n= 59)	89.8	6.8	3.4
	75～84歳 (n= 176)	91.5	4.5	4.0
	85歳以上 (n= 92)	89.1	9.8	1.1
要 介 護 度 別 (4 区 分)	要支援1 (n= 106)	92.5	6.6	0.9
	要支援2 (n= 51)	92.2	5.9	2.0
	軽度者 (n= 74)	94.6	5.4	0.0
	中重度者 (n= 64)	92.2	4.7	3.1
	わからない (n= 23)	73.9	17.4	8.7

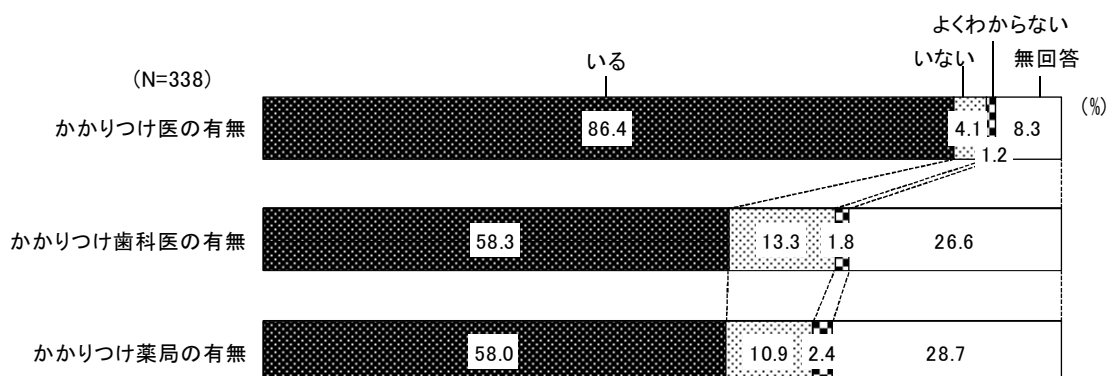
※要介護度別(4区分)軽度:要介護1～2の合計、中重度:要介護3～5の合計

(2) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（問2）

かかりつけ医の有無は、「いる」が86.4%、「いない」が4.1%となっている。

かかりつけ歯科医の有無は、「いる」が58.3%、「いない」が13.3%となっている。かかりつけ薬局の有無は、「いる」が58.0%、「いない」が10.9%となっている。（図表6-2-2）

図表6-2-2 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（全体）

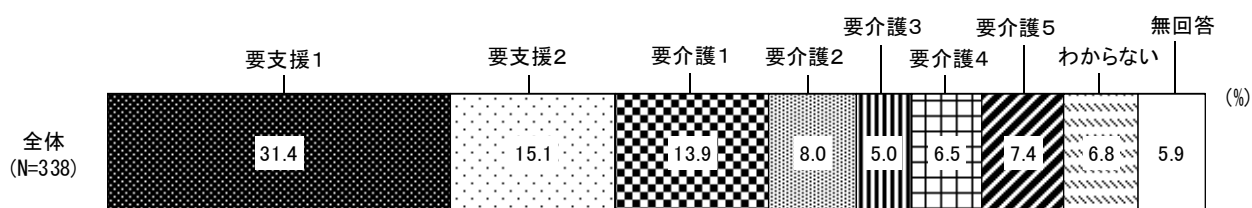


3 介護保険サービスの利用について

(1) 要介護度（問3）

要介護度は、「要支援1」が31.4%、「要支援2」が15.1%、「要介護1」が13.9%、「要介護2」が8.0%、「要介護3」が5.0%、「要介護4」が6.5%、「要介護5」が7.4%となっている。（図表6-3-1）

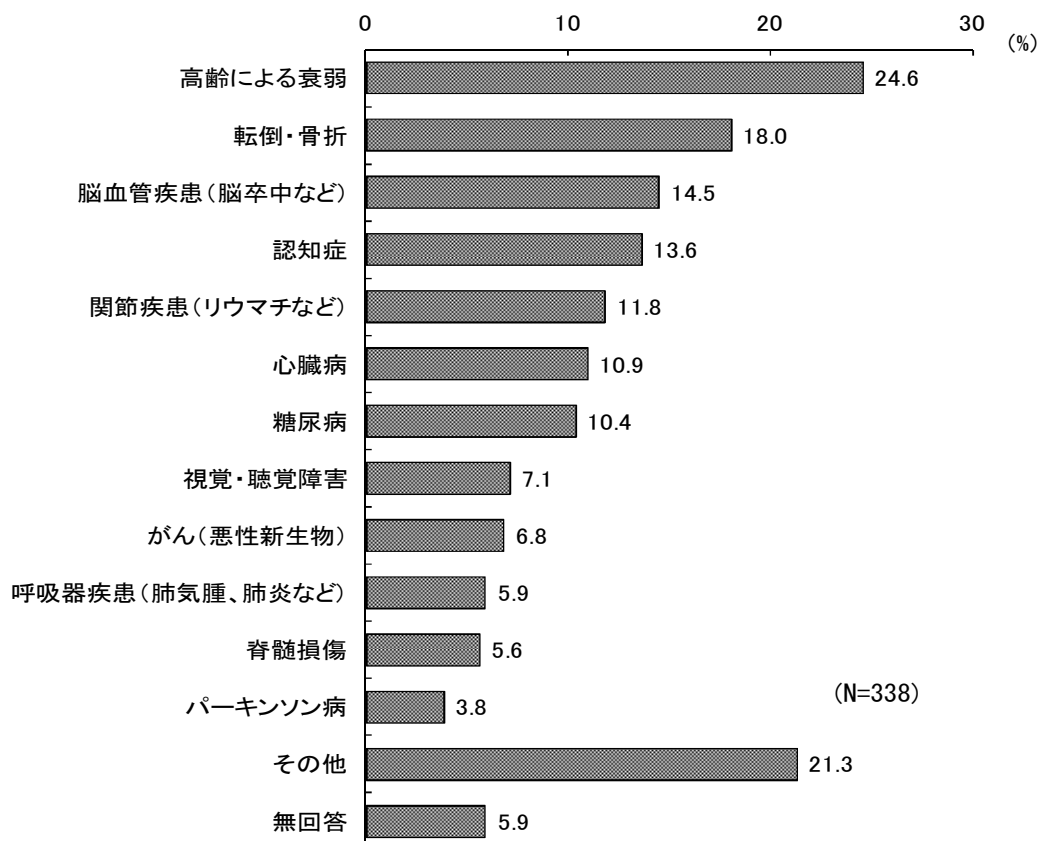
図表6-3-1 要介護度（全体）



(2) 要支援・要介護になった原因（問4）

要支援・要介護になった原因は、「高齢による衰弱（24.6%）」が最も多く、「転倒・骨折（18.0%）」が続いている。〔前回：今回とほぼ同傾向〕（図表6-3-2）

図表6-3-2 要支援・要介護になった原因（全体：複数回答）

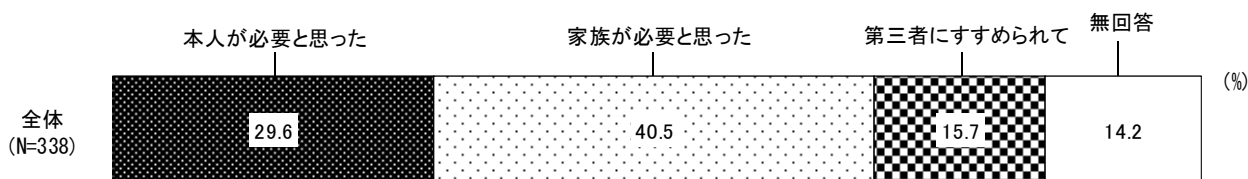


(3) 要介護認定について

①要介護認定の申請をしようと思った人（問5-1）

要介護認定の申請をしようと思った人は、「家族が必要と思った（40.5%）」が最も多く、「本人が必要と思った（29.6%）」、「第三者にすすめられて（15.7%）」が続いている。（図表6-3-3-①）

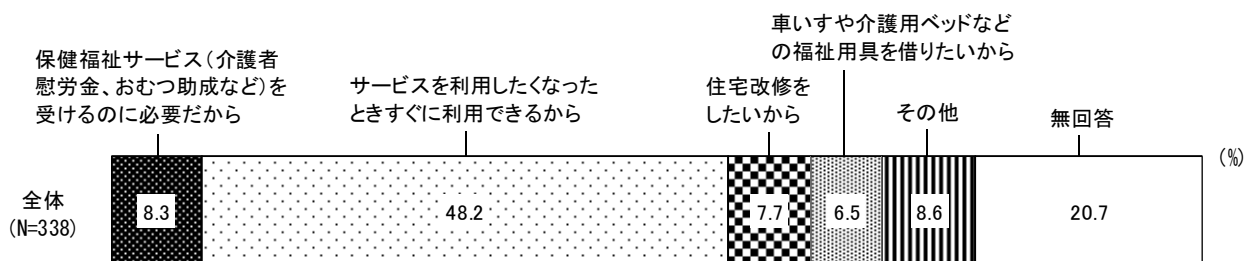
図表6-3-3-① 要介護認定の申請をしようと思った人（全体）



②要介護認定をしようと思った理由（問5-2）

要介護認定をしようと思った理由は、「サービスを利用したくなったときすぐに利用できるから（48.2%）」が最も多く、「その他（8.6%）」、「保健福祉サービス（介護者慰労金、おむつ助成など）を受けるのに必要だから（8.3%）」が続いている。（図表6-3-3-②）

図表6-3-3-② 要介護認定をしようと思った理由（全体）



(4) サービス未利用の理由 (問6)

介護保険サービスを利用していない理由は、「家族が介護してくれるから (33.4%)」、「まだ利用しなくてもよいと思うから (29.3%)」がともに3割前後を占め高くなっている。「利用したいサービスがないから」(8.9%)が1割程度になっている。

要介護度別にみると、各要介護度でほぼ同傾向となっているが、「家族が介護してくれるから」は軽度者で5割を超え高い。一方、「まだ利用しなくてもよいと思うから」、「利用したいサービスがないから」、「体調がよくなったから」は要介護度が低いほど若干高率になる傾向がみられる。(図表6-3-4)

図表6-3-4 サービス未利用の理由 (全体・要介護度別:複数回答)

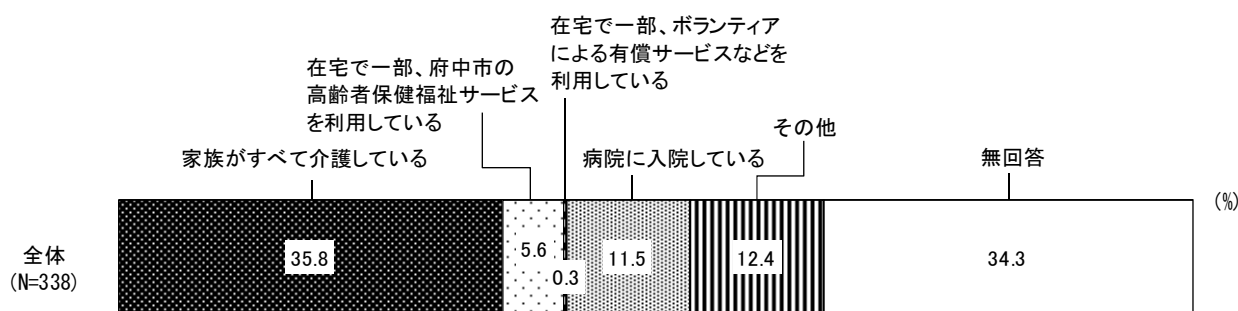
		家族が介護してくれるから	からまだ利用しなくてもよいと思う	病院に入院しているから	利用したいサービスがないから	が不安だから	家族以外に介護してもらおうこと	利用料がかかるから	体調がよくなったから	専門員(アマネジャー)が見つかからないから	よいケアマネジャー(介護支援)	だけでよかつたから	一時サービス(住宅改修など)	契約することが不安だから	からないから	よいサービス提供事業者が見つ	利用したいが家族に理解しても	その他	わからない	無回答
全	体 (N= 338)	33.4	29.3	12.1	8.9	5.3	5.3	5.0	3.3	3.3	2.1	2.1	0.3	10.7	1.8	20.7				
(4区 要介 護分 別)	要支援1 (n= 106)	28.3	46.2	0.9	11.3	5.7	4.7	8.5	2.8	4.7	1.9	1.9	0.0	5.7	1.9	18.9				
	要支援2 (n= 51)	37.3	35.3	0.0	9.8	2.0	9.8	5.9	2.0	0.0	3.9	0.0	2.0	17.6	0.0	25.5				
	軽度者 (n= 74)	55.4	31.1	5.4	10.8	5.4	5.4	4.1	2.7	4.1	2.7	4.1	0.0	13.5	1.4	10.8				
	中重度者 (n= 64)	23.4	3.1	53.1	4.7	9.4	3.1	1.6	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	10.9	0.0	17.2				
	わからない (n= 23)	21.7	17.4	8.7	4.3	4.3	8.7	4.3	13.0	0.0	4.3	0.0	0.0	13.0	8.7	30.4				

※要介護度別(4区分)軽度:要介護1~2の合計、中重度:要介護3~5の合計

(5) 介護を受けている方法 (問7)

サービスを利用せず、介護を受けている方法をたずねたところ、「家族がすべて介護している」が35.8%と3分の1強を占めている。次いで、「病院に入院している」が11.5%となっている。(図表6-3-5)

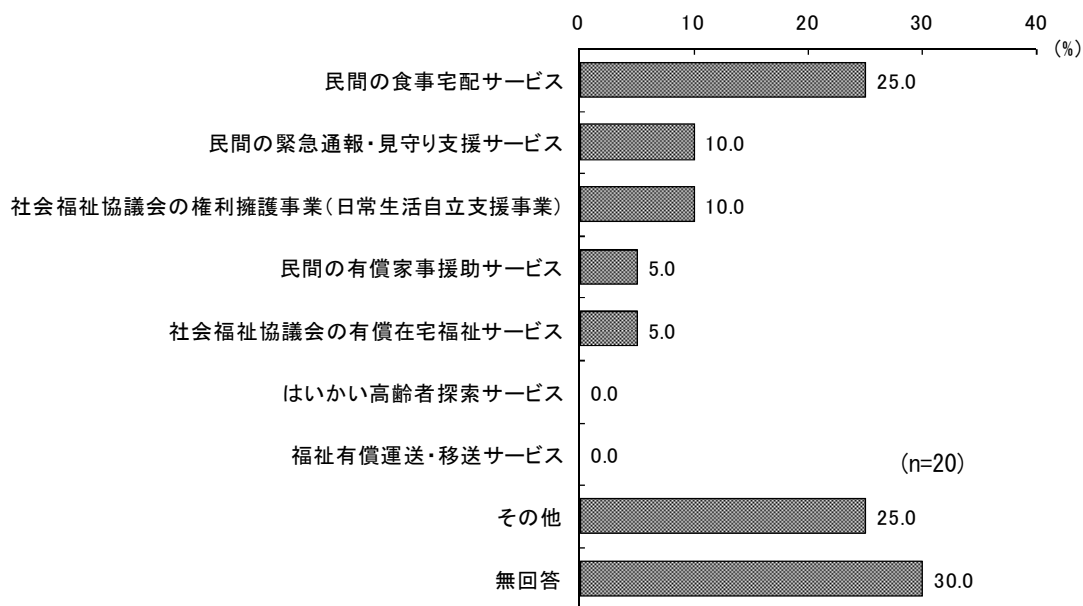
図表6-3-5 介護を受けている方法 (全体)



(6) 利用しているサービス (問7-1)

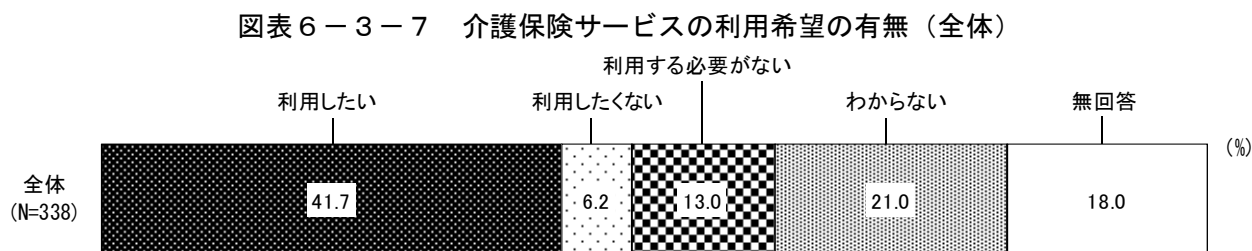
在宅で、一部サービスを利用していると答えた人にたずねたところ、利用しているサービスは、「民間の食事宅配サービス」(25.0%)が最も多い。(図表6-3-6)

図表6-3-6 利用しているサービス(全体:複数回答)
 <在宅で、一部サービスを利用していると回答した人>



(7) 介護保険サービスの利用希望の有無 (問8)

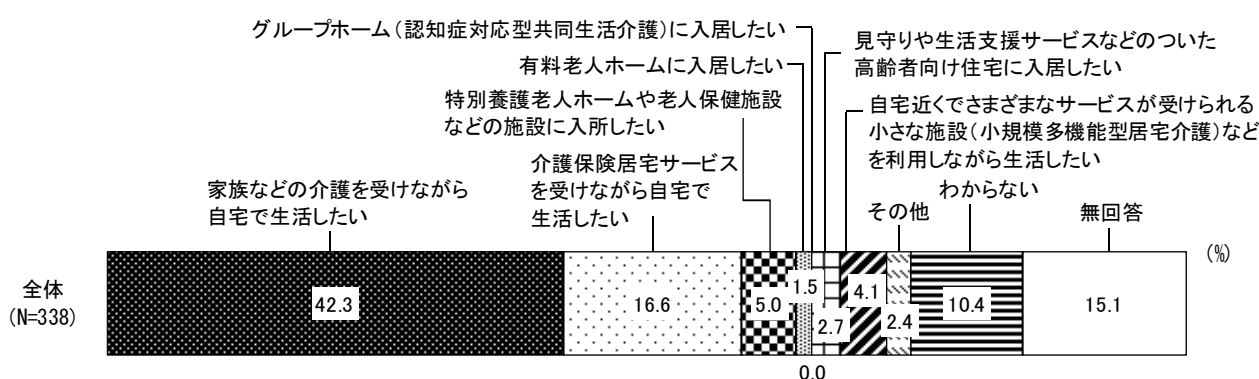
介護保険サービスの利用希望の有無は、「利用したい」が41.7%で4割を超えて最も多く、「わからない」が21.0%、「利用する必要がない」が13.0%となっている。[前回:ほぼ同傾向] (図表6-3-7)



(8) 今後生活したいところ (問9)

今後生活したいところは、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい (42.3%)」が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい (16.6%)」、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい (5.0%)」が続いている。「わからない」は10.4%である。〔前回:「家族等の介護を受けながら自宅で生活」39.2%、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活」28.6%、「特別養護老人ホーム等の施設に入所」3.8%〕(図表6-3-8)

図表6-3-8 今後生活したいところ (全体)



4 介護保険について

(1) 保険料段階 (問10)

保険料段階は、無回答が多いが、「2段階 (3.8%)」と「4段階 (3.8%)」が同数で最も多く、「1段階 (3.0%)」が続いている。(図表6-4-1)

図表6-4-1 保険料段階 (全体)

	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階	7段階	わからない・無回答
全体 (N=338)	3.0	3.8	0.6	3.8	1.8	1.8	1.8	83.4

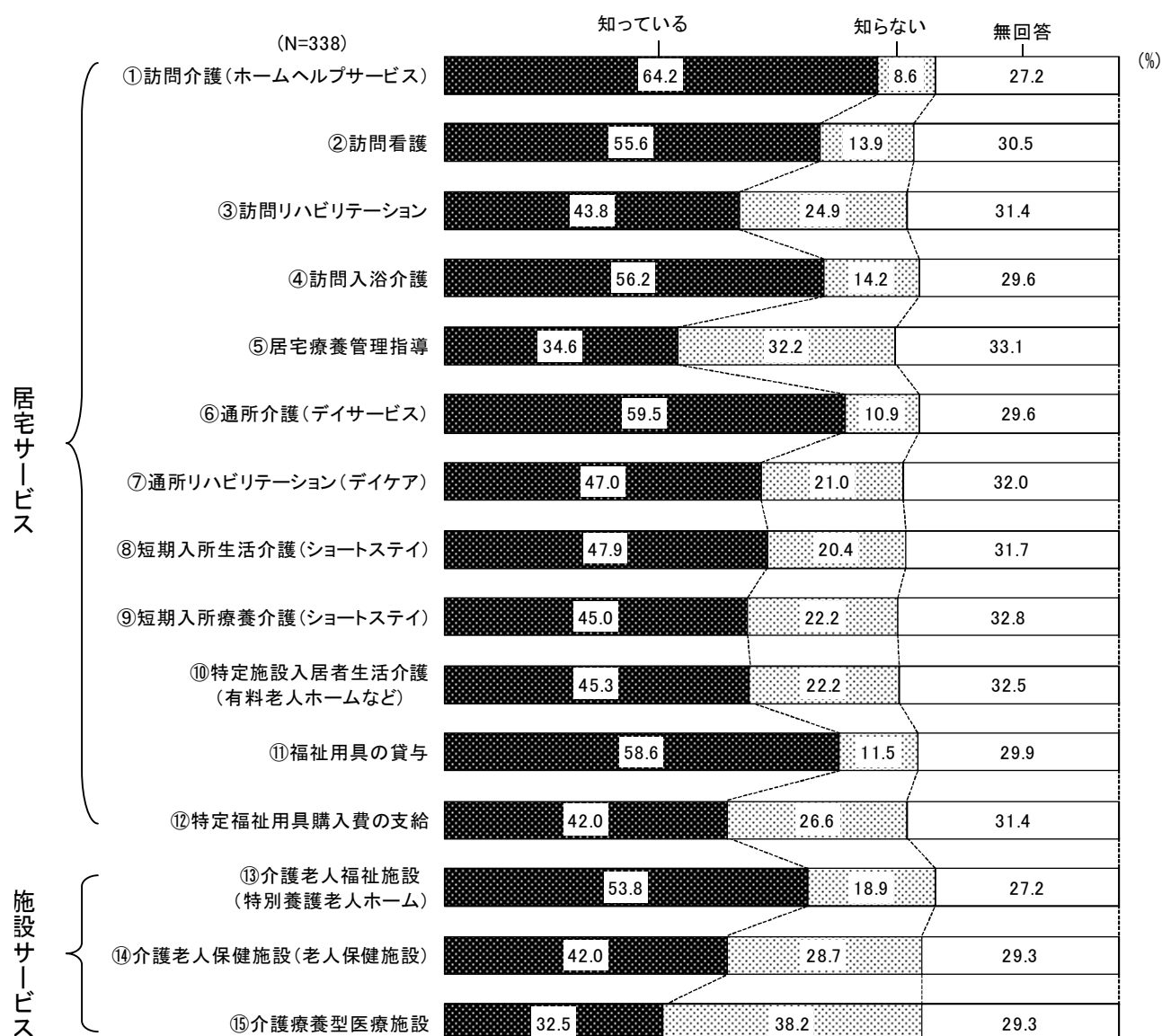
※8段階から11段階は回答なし

(2) 介護保険サービス (問 11)

① 介護保険サービスの認知度

介護保険サービスについて「知っている」の割合は、居宅サービスのうち、『訪問介護（ホームヘルプサービス）（64.2%）』が最も高く、『通所介護（デイサービス）（59.5%）』、『福祉用具の貸与（58.6%）』、『訪問入浴介護（56.2%）』の4項目で5割を超え高くなっている。施設サービスでは、『介護老人保健施設（53.8%）』が過半数占めている。〔前回：「知っている」の割合、『訪問介護（生活援助主体）』73.7%、『訪問介護（身体介護主体）』68.7%、『訪問入浴介護』67.8%、『通所介護（デイサービス）』65.8%〕（図表6-4-2-①）

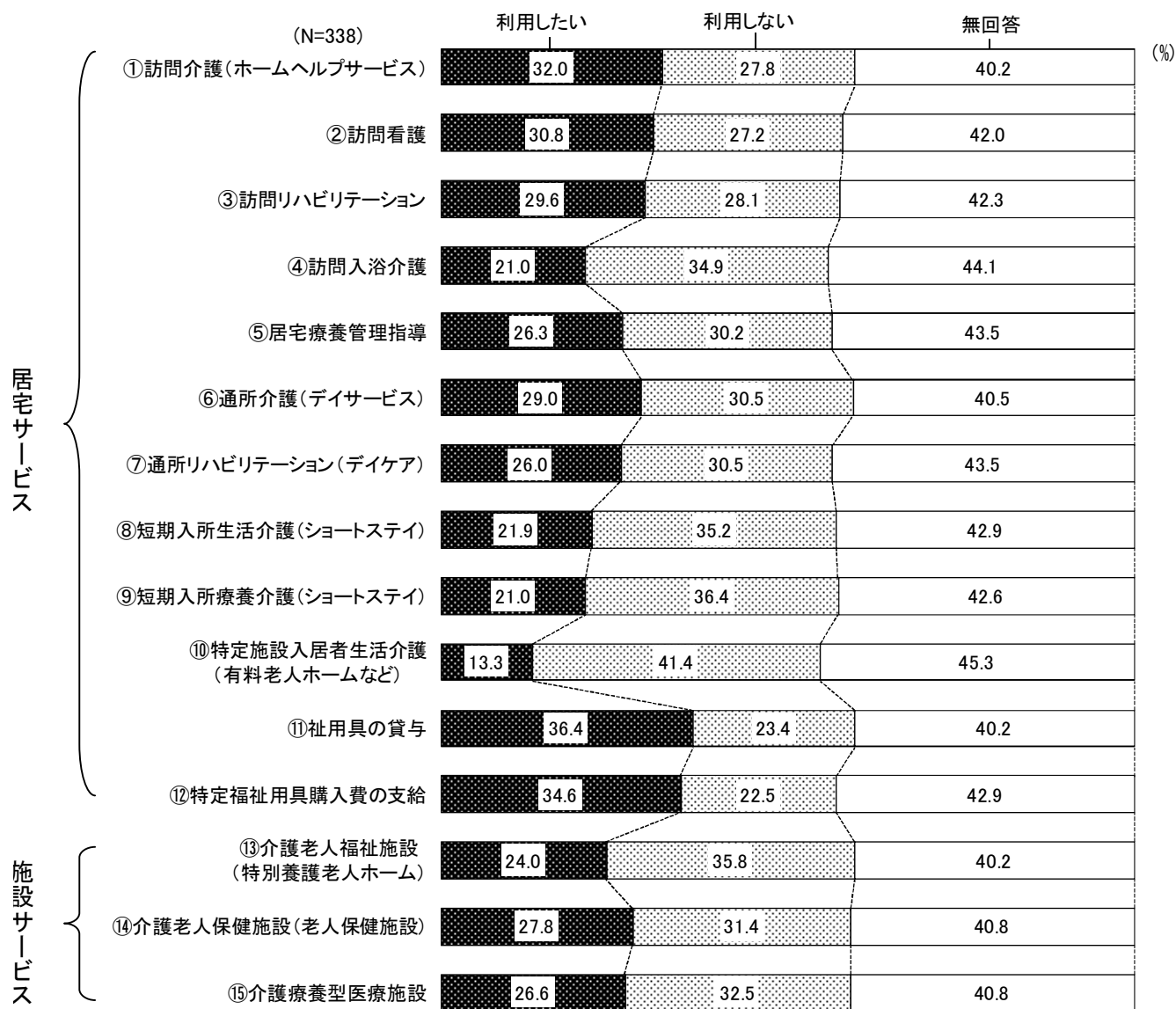
図表6-4-2-① 介護保険サービスの認知度（全体）



②介護保険サービスの利用意向

介護保険サービスについて「利用したい」の割合は、『福祉用具の貸与（36.4%）』、『特定福祉用具購入の支給（34.6%）』、『訪問介護（ホームヘルプサービス）（32.0%）』、『訪問看護（30.8%）』で30%以上を占め高くなっている。（図表6-4-2-②）

図表6-4-2-② 介護保険サービスの利用意向（全体）

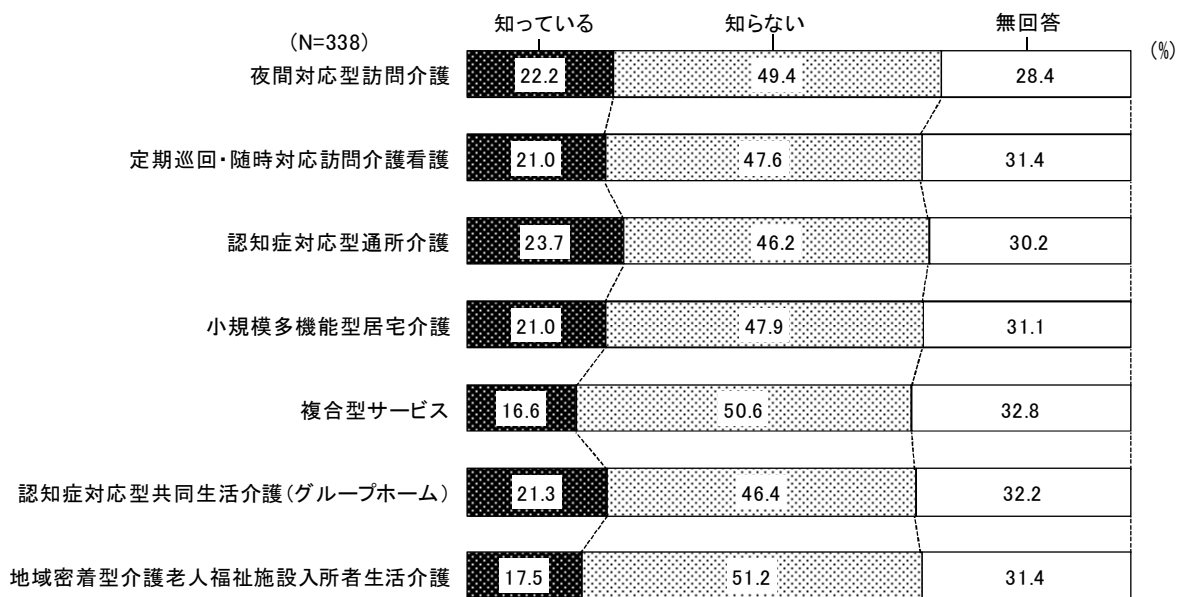


(3) 地域密着型サービス (問 12)

①地域密着型サービスの認知度

地域密着型サービスについて「知っている」の割合は、『認知症対応型通所介護 (23.7%)』が最も高く、『夜間対応型訪問介護 (22.2%)』、『認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) (21.3%)』が続いている。(図表6-4-3-①)

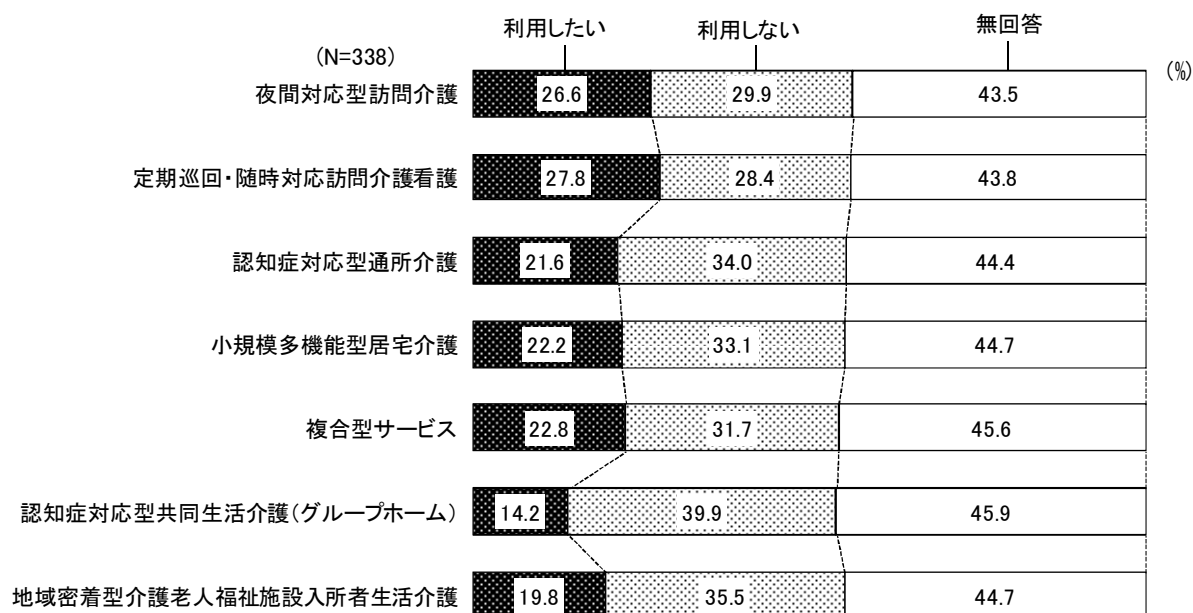
図表6-4-3-① 地域密着型サービスの認知度 (全体)



②地域密着型サービスの利用意向

地域密着型サービスについて「利用したい」の割合は、『定期巡回・随時対応訪問介護看護（27.8%）』が最も高く、『夜間対応型訪問介護（26.6%）』、『複合型サービス（22.8%）』が続いている。（図表6-4-3-②）

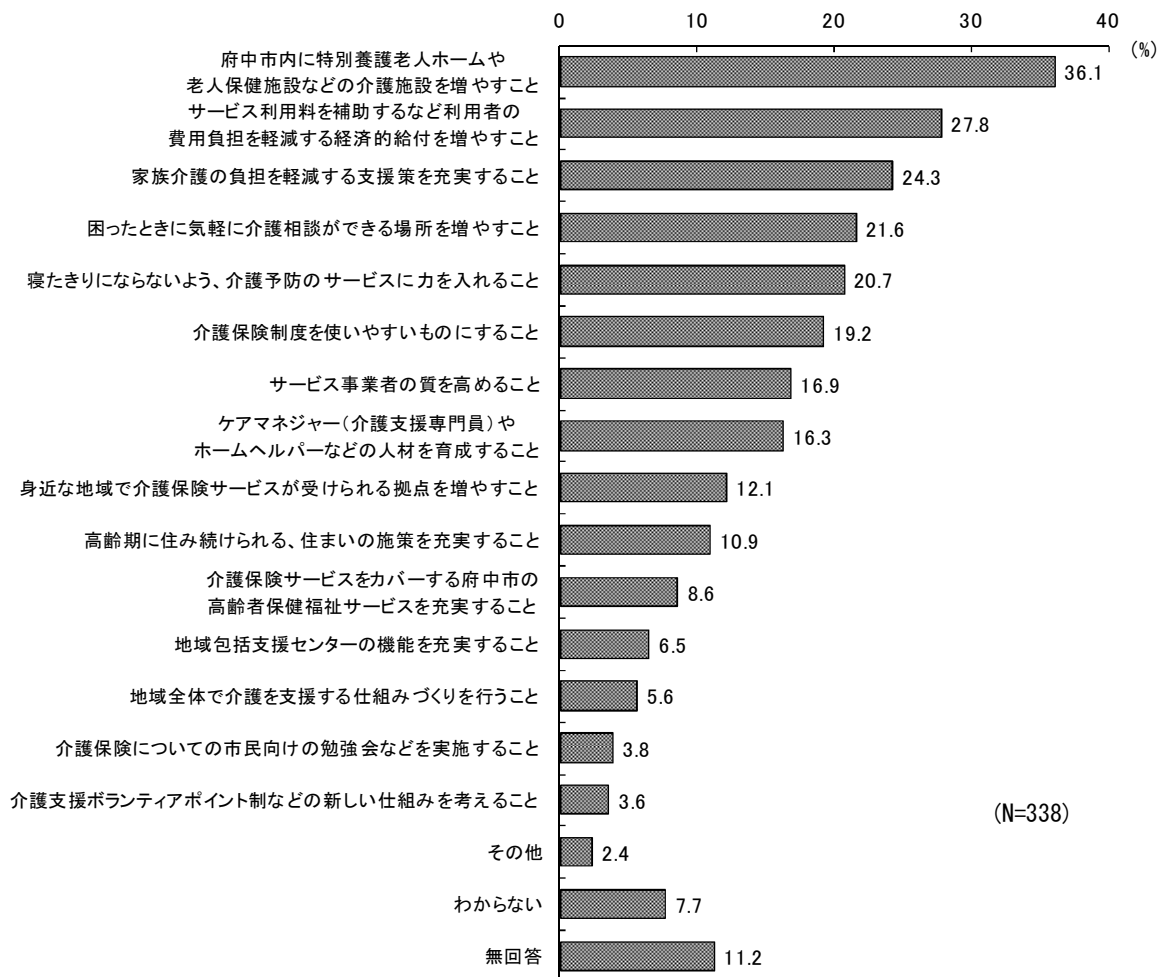
図表6-4-3-② 地域密着型サービスの利用意向（全体）



(4) 介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと (問13)

介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきことは、「府中市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと (36.1%)」が最も多く、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと (27.8%)」、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること (24.3%)」が続いている。〔前回:「利用者の費用負担を軽減すること」32.2%、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」27.1%、以下、ほぼ同傾向〕(図表6-4-4)

図表6-4-4 介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと
(全体:複数回答(3つまで))



5 災害時の対応について

(1) 災害対策のために自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて (問 14)

災害時の避難状況を確認するために、府中市役所、消防署、警察署や町内会・自治会に、自分の個人情報事前に知らせておくことについては、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい(46.7%)」が最も多く半数近くを占めている。「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」は26.0%、「いずれの情報も知らせたくない」は5.3%となっている。

年代別にみると、40～64歳は「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」が最も多いが、65歳以上では、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」が最も多くなっている。

地区別にみると、第四、第六地区では「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」が過半数を占め高くなっているが、第六地区では「いずれの情報も知らせたくない(11.3%)」が1割を超えているのが特徴である。第三地区では「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい(33.9%)」が3分の1を占め、他の地区に比べ高率となっている。

要介護度別にみると、要支援1では「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい(58.5%)」が6割近くを占めている。また、中重度では「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい(37.5%)」が4割近くを占め他の介護度に比べ若干高くなっている。(図表6-5-1)

図表6-5-1 災害対策のために自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて
(全体・年代別・地区別・要介護度別)

(%)

		よ い	最 低	名 前	情 報	状 態	最 低	な い	わ か ら な い	無 回 答
		限 や の 住 所 情 報 、 は 連 絡 先 な ど の も の	限 の 住 所 情 報 、 は 連 絡 先 な ど の も の	や 家 族 の 情 報 に 加 え 、 健 康 	を 知 ら せ て も よ い 関 	の 情 報 に 加 え 、 健 康 	限 の 情 報 に 加 え 、 健 康 	ず れ の 情 報 も 知 ら せ た く		
全	体 (N= 338)	46.7	26.0	5.3	8.9	13.0				
年 代 別	40～64歳 (n= 9)	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1				
	65～74歳 (n= 59)	54.2	22.0	6.8	5.1	11.9				
	75～84歳 (n= 176)	47.7	27.3	5.1	8.0	11.9				
	85歳以上 (n= 92)	43.5	26.1	3.3	12.0	15.2				
地 区 別	第一地区 (n= 58)	39.7	31.0	8.6	6.9	13.8				
	第二地区 (n= 55)	47.3	18.2	5.5	16.4	12.7				
	第三地区 (n= 56)	46.4	33.9	3.6	7.1	8.9				
	第四地区 (n= 42)	52.4	23.8	0.0	7.1	16.7				
	第五地区 (n= 59)	49.2	22.0	1.7	10.2	16.9				
	第六地区 (n= 53)	54.7	24.5	11.3	3.8	5.7				
要 介 護 度 別	要支援1 (n= 106)	58.5	24.5	7.5	4.7	4.7				
	要支援2 (n= 51)	45.1	19.6	5.9	13.7	15.7				
	軽度者 (n= 74)	45.9	27.0	5.4	10.8	10.8				
	中重度者 (n= 64)	32.8	37.5	3.1	12.5	14.1				
	わからない (n= 23)	43.5	17.4	4.3	8.7	26.1				

(2) 「災害時要援護者事業」の認知度 (問 15)

「災害時要援護者事業」の認知度は、「事業の内容まで知っている」は 2.4%、「事業の名前を聞いたことがある」は 12.4%、「知らない」は 69.2%と約7割となっている。[前回:「事業の内容まで知っている」11.5%、「事業の名前を聞いたことがある」16.5%、「知らない」54.6%]

要介護度別にみると、要支援1と要支援2でともに「事業の名前を聞いたことがある」が16%前後を占め、他の介護度に比べ若干高くなっている。(図表6-5-2)

図表6-5-2 「災害時要援護者事業」の認知度 (全体・要介護度別)

		(%)				
		事業の内容まで知っている	事業の名前を聞いたことがある	知らない	わからない	無回答
全	体 (N= 338)	2.4	12.4	69.2	8.6	7.4
要 4 区 護 分 度 別	要支援1 (n= 106)	4.7	17.0	69.8	7.5	0.9
	要支援2 (n= 51)	0.0	15.7	68.6	7.8	7.8
	軽度者 (n= 74)	1.4	8.1	74.3	10.8	5.4
	中重度者 (n= 64)	3.1	7.8	70.3	10.9	7.8
	わからない (n= 23)	0.0	8.7	69.6	0.0	21.7

(3) 災害時の不安 (問 16)

災害時の不安や心配ごとは、「自分の歩行に不安があること (63.3%)」が最も多く、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと (37.0%)」、「老朽化など住まい (家屋) のこと (29.6%)」「避難所がはっきり分からないこと (29.6%)」が続いている。

地区別にみると、第四地区で「自分の歩行に不安があること」が76.2%と高い。第一地区では、「老朽化など住まい (家屋) のこと」「避難所がはっきり分からないこと」「家具や家電の転倒対策が不十分なこと」「同居の家族の歩行に不安があること」で他の地区に比べ高いのが特徴である。

要介護度別にみると、要支援2と軽度で「自分の歩行に不安があること」が7割を超え高くなっている。また、要支援1では「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が4割強を占めて高い。(図表6-5-3)

図表6-5-3 災害時の不安や心配ごと(全体・地区別・要介護度別・複数回答)

		自分の歩行に不安があること	食糧や日用品の備蓄が不十分なこと	老朽化など住まい (家屋) のこと	避難所がはっきり分からないこと	家具や家電の転倒対策が不十分なこと	同居の家族の歩行に不安があること	特にな不安や心配ごと	その他	無回答
全体 (N= 338)		63.3	37.0	29.6	29.6	24.3	18.3	3.6	3.6	7.4
地区別	第一地区 (n= 58)	65.5	34.5	36.2	39.7	31.0	24.1	1.7	1.7	12.1
	第二地区 (n= 55)	69.1	38.2	30.9	27.3	23.6	18.2	5.5	5.5	5.5
	第三地区 (n= 56)	51.8	42.9	32.1	21.4	25.0	14.3	3.6	7.1	5.4
	第四地区 (n= 42)	76.2	31.0	19.0	16.7	21.4	21.4	7.1	2.4	4.8
	第五地区 (n= 59)	62.7	35.6	32.2	33.9	22.0	16.9	5.1	5.1	3.4
	第六地区 (n= 53)	58.5	41.5	26.4	34.0	26.4	17.0	0.0	0.0	7.5
要介護度別	要支援1 (n= 106)	62.3	43.4	29.2	29.2	29.2	20.8	3.8	3.8	2.8
	要支援2 (n= 51)	72.5	29.4	23.5	29.4	23.5	21.6	5.9	3.9	3.9
	軽度者 (n= 74)	71.6	33.8	33.8	32.4	28.4	17.6	2.7	2.7	4.1
	中重度者 (n= 64)	57.8	31.3	32.8	21.9	20.3	9.4	3.1	3.1	17.2
	わからない (n= 23)	60.9	47.8	21.7	47.8	17.4	21.7	0.0	0.0	4.3

(4) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの (問17)

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うものは、「地域住民どうしの声かけや安否確認 (65.7%)」が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など (32.2%)」、「地域独自のマニュアルや防災マップの作成 (27.8%)」が続いている。

年代別にみると、「地域住民どうしの声かけや安否確認」は年代が上がるに従い高くなり、逆に、「地域住民を対象とした防災講習会・学習会の開催」は、年代が上がるに従い低くなっている。

地区別にみると、第一、第二地区で総じて、他の地区に比べ高率であるが、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」が4割以上、「地域独自のマニュアルや防災マップの作成」が35%を超えて高くなっている。第五地区では、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」が3割を超え他の地区に比べ高くなっている。

要介護度別にみると、軽度者では、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」が高く、中重度者では、「住民たちで行う防災組織の活動の充実」「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」で他の介護度に比べ高くなっている。(図表6-5-4)

図表6-5-4 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの
(全体・年代別・地区別・要介護度別：複数回答)

(%)

		が地 け域 や住 民ど う 安 否 確 認 の 声	供の 提 な や 備 蓄 品 の 提 場	商店 や 会 社 に よ る 提 場	プニ の 作 成 ル 自 の 防 災 マ ッ	組 住 民 の た ち の 活 動 で の 充 う 実 防 災	な 地 域 防 災 ぐ る み の 充 実 的	流と の 域 内 外 の か 団 体 の 交 渉	育小 ・ 訓 練 の 充 実 防 災 教 育	会た の 開 催 防 災 住 民 を 対 象 と し た 学 習 し	そ の 他	無 回 答
全	体 (N= 338)	65.7	32.2	27.8	19.5	19.5	13.6	10.1	9.8	1.5	15.4	
年 代 別	40～64歳 (n= 9)	55.6	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	22.2	
	65～74歳 (n= 59)	61.0	35.6	30.5	18.6	18.6	10.2	8.5	11.9	0.0	13.6	
	75～84歳 (n= 176)	66.5	32.4	31.3	23.9	22.7	18.2	11.4	10.8	1.7	14.8	
	85歳以上 (n= 92)	68.5	31.5	20.7	13.0	14.1	7.6	8.7	5.4	2.2	16.3	
地 区 別	第一地区 (n= 58)	70.7	43.1	36.2	31.0	13.8	12.1	13.8	8.6	0.0	8.6	
	第二地区 (n= 55)	65.5	40.0	36.4	20.0	20.0	16.4	3.6	7.3	0.0	20.0	
	第三地区 (n= 56)	64.3	39.3	25.0	16.1	21.4	19.6	10.7	8.9	1.8	14.3	
	第四地区 (n= 42)	73.8	19.0	28.6	19.0	14.3	4.8	11.9	14.3	2.4	7.1	
	第五地区 (n= 59)	67.8	27.1	22.0	15.3	30.5	10.2	8.5	8.5	5.1	13.6	
	第六地区 (n= 53)	60.4	26.4	24.5	18.9	20.8	20.8	13.2	15.1	0.0	20.8	
要 支 援 1 (n= 106)	要支援1 (n= 106)	72.6	34.9	29.2	22.6	22.6	15.1	7.5	14.2	0.9	9.4	
	要支援2 (n= 51)	68.6	29.4	29.4	13.7	7.8	15.7	9.8	13.7	0.0	19.6	
	軽度者 (n= 74)	64.9	39.2	33.8	13.5	16.2	9.5	13.5	4.1	2.7	12.2	
	中重度者 (n= 64)	59.4	28.1	25.0	28.1	28.1	10.9	12.5	10.9	0.0	17.2	
	わからない (n= 23)	60.9	21.7	30.4	17.4	21.7	21.7	8.7	4.3	0.0	17.4	

(5) 災害対策として大切と思うこと (問 18)

災害対策として大切と思うことは、「防災グッズ (非常用食料、飲料水など) の準備 (67.8%)」が最も多く、「薬や貴重品等をすぐ持ち出せるよう準備 (52.1%)」、「避難場所・ルートの確認 (30.2%)」、「日ごろの近所づきあいや町会活動など地域とのかかわり (27.8%)」が続いている。

年代別にみると、「認知症の人や障害者の特性、支援方法などについての理解を深めること」と「防災訓練への参加」は年代が上がるに従い低くなっている。

地区別にみると、第六地区では、「防災グッズ (非常用食料、飲料水など) の準備」と「家具の固定、ガラス拡散対策」で高く、第四地区で「薬や貴重品等をすぐ持ち出せるよう準備」が他の地区に比べ高くなっている。

要介護度別にみると、「避難場所・ルートの確認」は、要介護度が重くなるに従い低くなっている。(図表6-5-5)

図表6-5-5 災害対策として大切と思うこと
(全体・年代別・地区別・要介護度別:複数回答(3つまで))

		防災グッズの準備 (非常用食料、飲料)	薬や貴重品などをすぐ持ち出せるよう準備	避難場所・ルートの確認	日ごろの近所づきあいや町会活動などの地域との関わり	家具の固定、ガラス拡散対策	認知症の人や障害者の特性、支援方法などについての理解を深めること	支援方法を記載した防災手帳やカードを配布すること	災害時要援護者事業の対象としての登録	補聴器の電池など日常生活用具に係る消耗品の備蓄	防災訓練への参加	その他	無回答
全	体 (N= 338)	67.8	52.1	30.2	27.8	22.2	14.2	12.4	9.2	6.8	5.3	2.1	9.2
年代別	40～64歳 (n= 9)	66.7	33.3	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1
	65～74歳 (n= 59)	72.9	47.5	30.5	25.4	27.1	16.9	10.2	6.8	1.7	8.5	0.0	6.8
	75～84歳 (n= 176)	67.0	55.1	31.3	29.0	21.6	13.6	13.6	9.7	4.5	4.5	3.4	8.5
	85歳以上 (n= 92)	66.3	51.1	28.3	27.2	21.7	13.0	10.9	10.9	13.0	3.3	1.1	10.9
地区別	第一地区 (n= 58)	62.1	53.4	29.3	32.8	12.1	19.0	10.3	12.1	3.4	6.9	0.0	13.8
	第二地区 (n= 55)	72.7	58.2	29.1	36.4	20.0	7.3	12.7	10.9	9.1	10.9	0.0	10.9
	第三地区 (n= 56)	66.1	50.0	33.9	30.4	21.4	16.1	12.5	7.1	1.8	1.8	1.8	8.9
	第四地区 (n= 42)	69.0	64.3	35.7	26.2	19.0	16.7	19.0	7.1	9.5	2.4	2.4	2.4
	第五地区 (n= 59)	62.7	52.5	28.8	22.0	25.4	16.9	10.2	15.3	10.2	10.2	6.8	3.4
	第六地区 (n= 53)	79.2	49.1	24.5	20.8	34.0	13.2	11.3	3.8	7.5	0.0	1.9	9.4
要介護度別	要支援1 (n= 106)	72.6	53.8	35.8	32.1	21.7	12.3	11.3	10.4	3.8	6.6	1.9	2.8
	要支援2 (n= 51)	64.7	58.8	33.3	29.4	21.6	13.7	17.6	11.8	9.8	3.9	0.0	9.8
	軽度者 (n= 74)	68.9	54.1	25.7	18.9	24.3	16.2	12.2	6.8	12.2	5.4	5.4	8.1
	中重度者 (n= 64)	64.1	45.3	23.4	25.0	21.9	20.3	10.9	7.8	3.1	4.7	0.0	14.1
	わからない (n= 23)	60.9	43.5	39.1	30.4	21.7	8.7	21.7	17.4	8.7	8.7	0.0	13.0

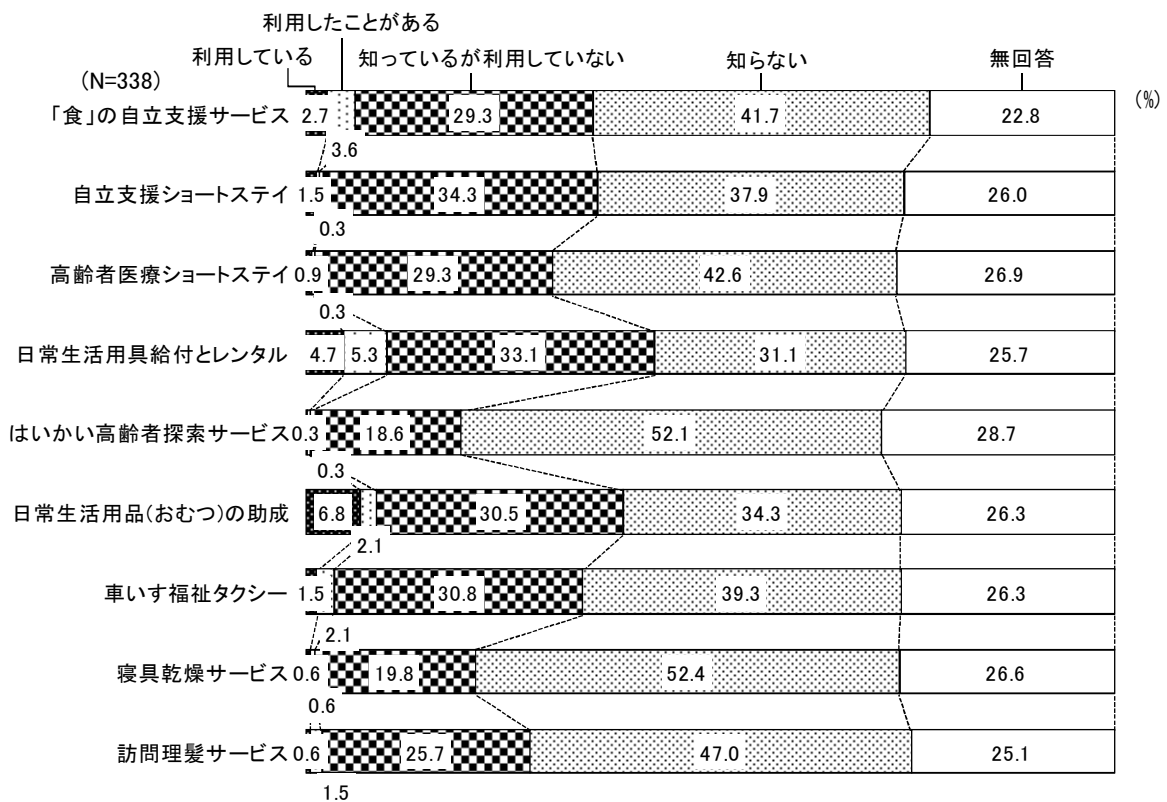
6 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスの利用（問19）

① 高齢者保健福祉サービスの利用状況

高齢者保健福祉サービスについて、「利用している」の割合は、『日常生活用品（おむつ）の助成（6.8%）』が最も高く、『日常生活用具給付とレンタル（4.7%）』が続いている。「知らない」の割合が高いのは、『寝具乾燥サービス（52.4%）』と『はいかい高齢者探索サービス（52.1%）』となっている。（図表6-6-1-①）

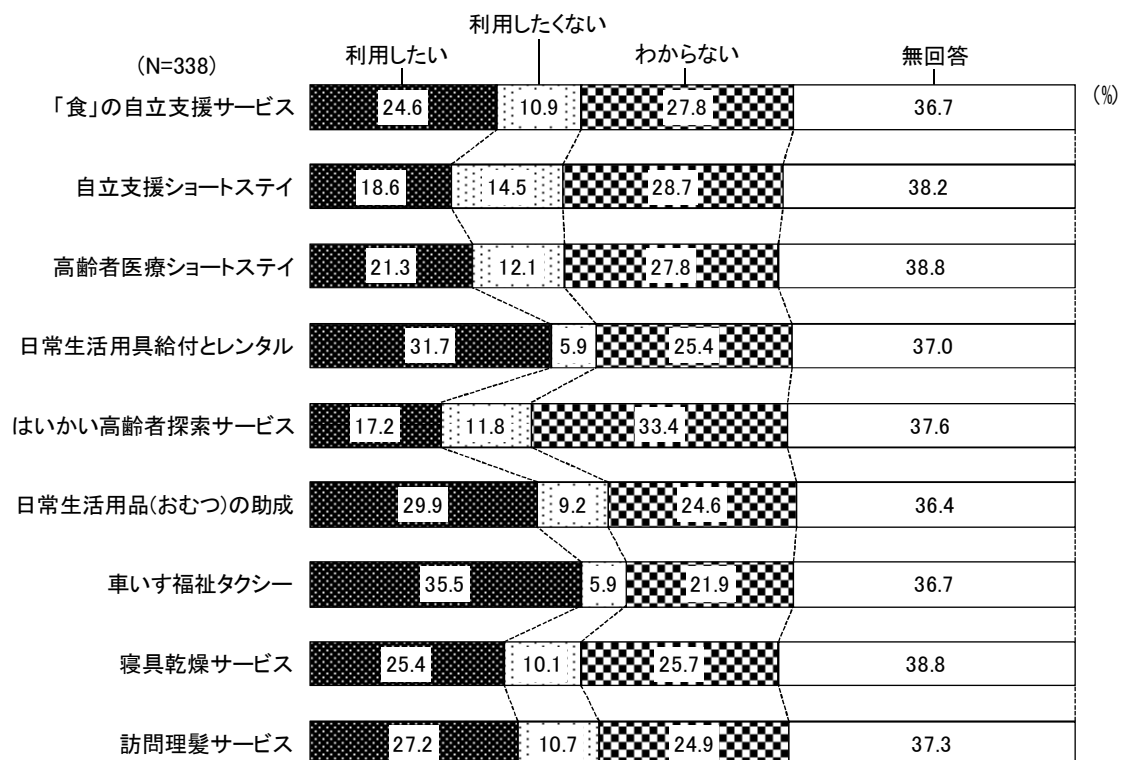
図表6-6-1-① 高齢者保健福祉サービスの利用状況（全体）



②高齢者保健福祉サービスの利用意向

高齢者保健福祉サービスについて、「利用したい」の割合は、『車いす福祉タクシー (35.5%)』、『日常生活用具給付とレンタル(31.7%)』が多くなっている。「利用したくない」の割合は、『自立支援ショートステイ (14.5%)』、『高齢者医療ショートステイ (12.1%)』が多くなっている。(図表6-6-1-②)

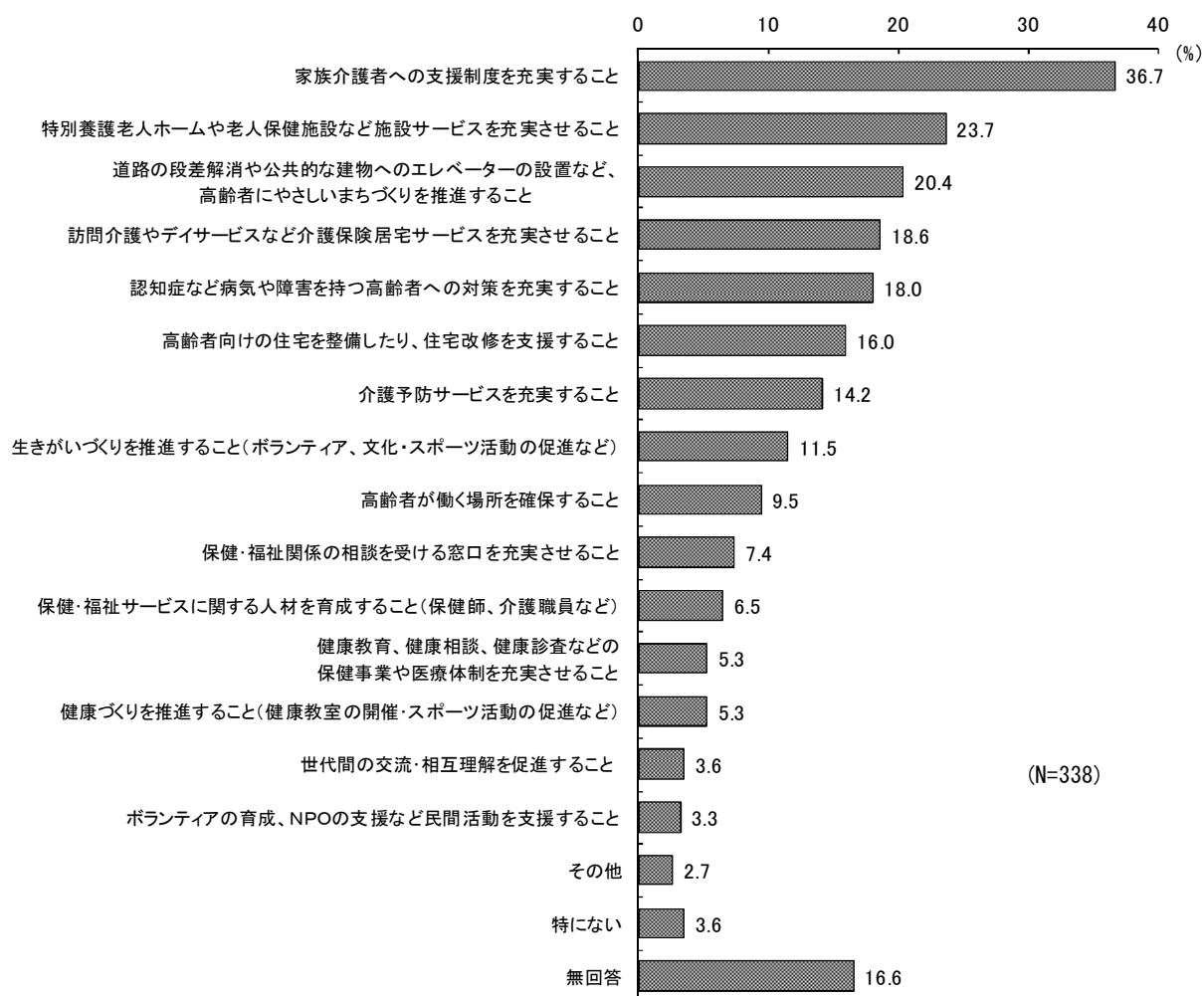
図表6-6-1-② 高齢者保健福祉サービスの利用意向 (全体)



(2) 市が取り組むべき高齢者保健福祉サービス（問20）

今後、市が取り組むべき高齢者保健福祉サービスは、「家族介護者への支援制度を充実すること（36.7%）」が最も多く、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること（23.7%）」、「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること（20.4%）」が続いている。（図表6-6-2）

図表6-6-2 高齢者保健福祉サービスの利用状況（全体：複数回答（3つまで））

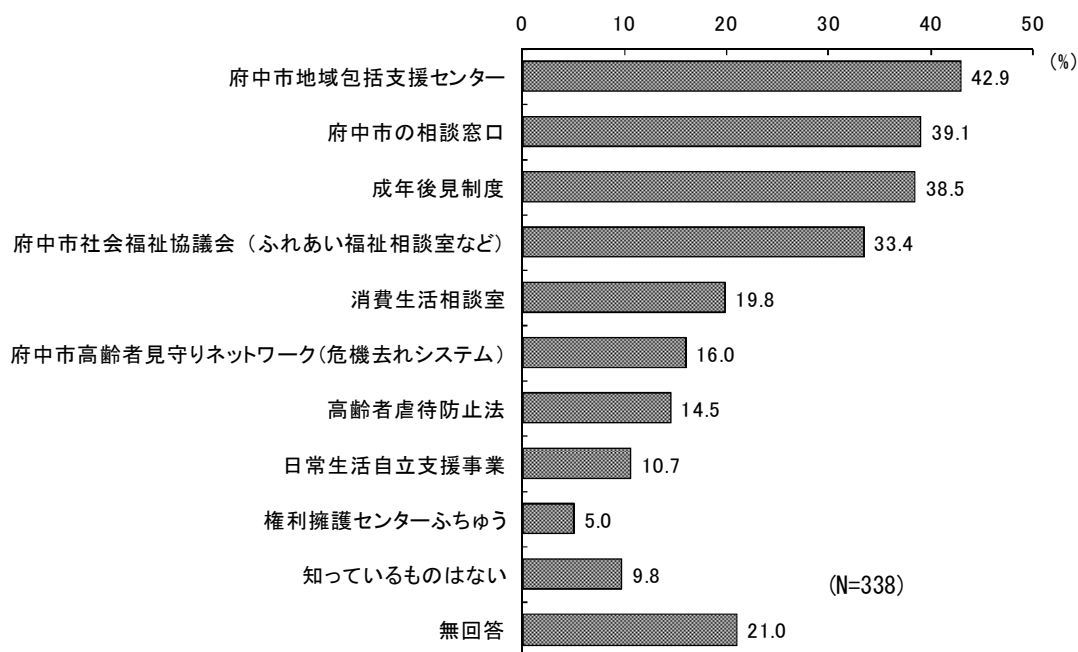


7 高齢者の権利擁護などについて

(1) 高齢者の権利や生活を守るための知っている制度や相談窓口（問21）

高齢者の権利や生活を守るための知っている制度や相談窓口は、「府中市地域包括支援センター（42.9%）」が最も多く、「府中市の相談窓口（39.1%）」、「成年後見制度（38.5%）」が続いている。（図表6-7-1）

図表6-7-1 高齢者の権利や生活を守るための知っている制度や相談窓口（全体：複数回答）

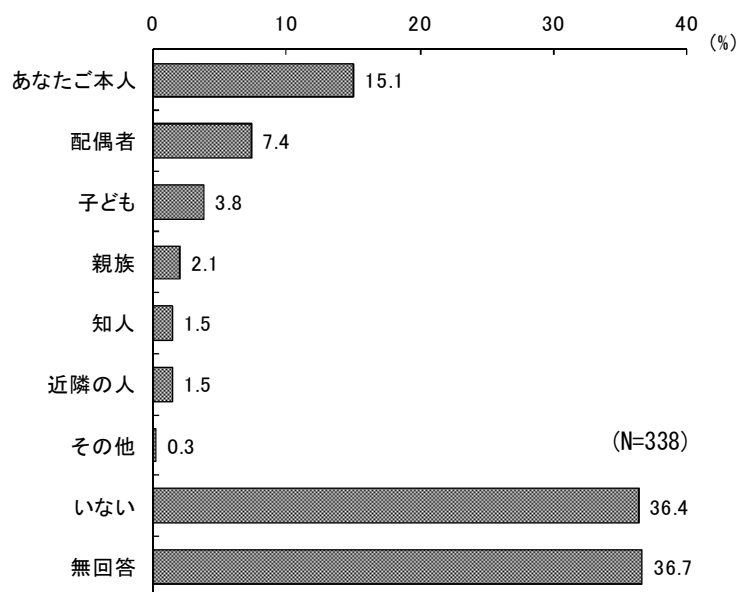


(2) 周囲で困っている人（本人を含む）

①周囲で困っている人（本人を含む）（問22）

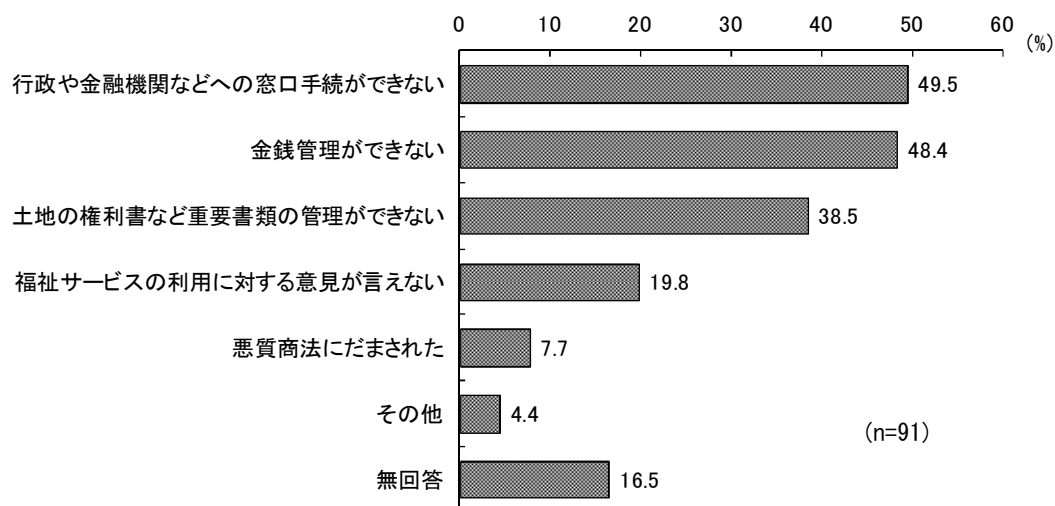
あなたの周囲で困っている方は、最も多いのは「いない（36.4%）」である。困っている人は、「あなたご本人（15.1%）」、「配偶者（7.4%）」となっている。（図表6-7-2-①）

図表6-7-2-① 周囲で困っている人（本人を含む）（全体：複数回答）



②困っていること（問22-1）

周囲に困っている人がいると答えた人にたずねたところ、困っていることは、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（49.5%）」が最も多く、「金銭管理ができない（48.4%）」、「土地の権利書など重要書類の管理ができない（38.5%）」が続いている。（図表6-7-2-②）

図表6-7-2-② 困っていること
＜困っている人がいると回答した人＞（全体：複数回答）

8 自由回答（問23）

高齢者保健福祉や介護保険について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で31件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

市への要望：5件

- ・ 市役所の利用時間帯を増やしてほしい。予約制にするなどして、日曜日でも手続きできるようにしてほしい。（女性、80～84歳、要介護4）【家族】
- ・ 介護全般について気軽に相談できるところがほしい。（男性、85～89歳、要支援2）
- ・ 毎年、市役所から敬老の祝いで芸人（歌手）を呼んだイベントの招待券を頂いているが、体が十分に動かず行きたくても出かけられない。残念な思いを毎度毎度してきて感謝の気持ちがわきません。商店買物券とか物品でぜひお願いしたいと切に望んでいます。（女性、70～74歳、要支援2）
- ・ 調査が必要なことはよくわかりますが、外へ出て生の声を聞いて頂けませんか。（男性、80～84歳、要支援1）

経済的不安：12件

- ・ 介護用品が高すぎる。何をするにも金銭面を考えると、すぐに行動できないことが多いです。高齢者で所得の低い人から、保険料等取り過ぎだと思えます。家も借家で、収入も無い人は、どうしたらよいのでしょうか？（女性、80～84歳、要介護2）【家族】
- ・ レンタル料の使用の幅を広げる。介護1と2ではかなり違うと思えます。（女性、75～79歳、要介護1）【家族】
- ・ サービスを受ければ、それだけ費用がかかるため、経済的に負担が大きい。今は、お金のある人だけが手厚い介護を受けられるという思いです。（女性、80～84歳、要介護4）【家族】
- ・ 両親の介護をしているうちに再就職をしそこねた感がある。両親の年金で生活しているため、経済的に常にカツカツで不安。（女性、70～74歳、要介護1）
- ・ 2年前の3月に両親を介護するため、仕事を退職し、現在、父の年金だけでやりくりしています。一時期父が施設入所していた。今、どんどん見守りが必要な状態となっているが、次の入所は金銭的に難しい。府中市が認知症の家庭の認識やフォローなど少し手伝って頂けるとありがたいです。家族全員で死にたい気持ちに何度もなりました。（女性、85～89歳、要介護5）【家族】
- ・ 骨と足が痛いので、主人の車がないと大変です。どこへ行くにもタクシーなのでお金がかかります。（女性、75～79歳、要支援2）
- ・ 家から病院まで毎月、定期を買っています。定期代がいただけたら助かります。（女性、90～94歳、要介護5）【家族】

介護者への支援：4件

- ・ 介護度に応じて、在宅介護者の介護保険料を減免してほしい。（女性、80～84歳、要介護3）
【家族】
- ・ 妻がヘルパーの仕事を辞めて自分の介護をしています。妻に手当と自由になる時間を与えたいと思っています。他人を世話している時は手当がありましたが、家族は無いのは不公平に思います。（男性、75～79歳、要介護2）
- ・ 何とか己自身の努力で最小限の生活をしている人に、何らかの特典を与えるべきではないでしょうか。（男性、85～89歳、要支援2）

市や介護施設のサービスに対する要望：10件

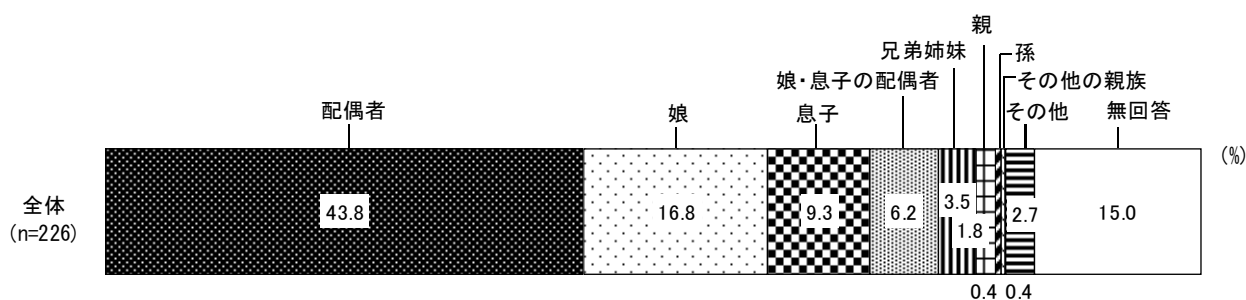
- ・ 居宅介護支援事業所のサービスや対応をしっかりしてほしい。事業所によっては、次から次へとケアマネジャーが変わり、やっと慣れたころ、また、変わるので誰に相談すればよいのかわからない。（女性、80～84歳、要介護4）【家族】
- ・ 自宅での医療、介護を充実してほしい。（男性、70～74歳、要支援2）
- ・ 要支援1の介護予防サービスで一日通い、プールなどがあるとよい。（女性、80～84歳、要支援1）
- ・ 寝たきり高齢者への巡回型の医療体制の現状がPRされていない。（男性、80～84歳、要支援1）
- ・ 介護保険の使い方を教えてくれる窓口を知りたい。地域包括支援センターに行ったが、担当者の一方向的な意見に終わってしまった。（男性、85～89歳、要介護1）
- ・ 子ども世帯と一緒に住んでいると、利用できるサービスにいろいろ制限があるようなので困ります。（女性、80～84歳、要介護度不明）
- ・ 同居家族がいと、介護を受けるにあたって制約があると聞きます。（男性、75～79歳、要支援2）【家族】

9 主な介護者の状況や意向について ※主に介護している方への質問

(1) 主な介護者 (問 24)

主な介護者は「配偶者 (43.8%)」が最も多く、「娘 (16.8%)」、「息子 (9.3%)」、「娘・息子の配偶者 (6.2%)」が続いている。(図表6-9-1)

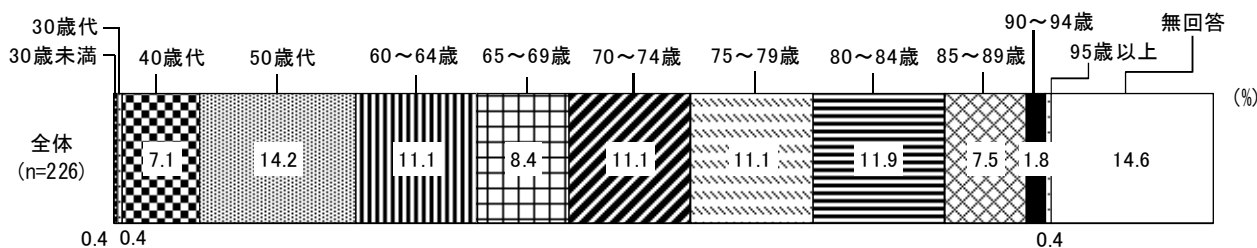
図表6-9-1 主な介護者 (全体)



(2) 主な介護者の年齢 (問 25)

主な介護者の年齢は、「50歳代 (14.2%)」が最も多く、「80~84歳 (11.9%)」が続いている。(図表6-9-2)

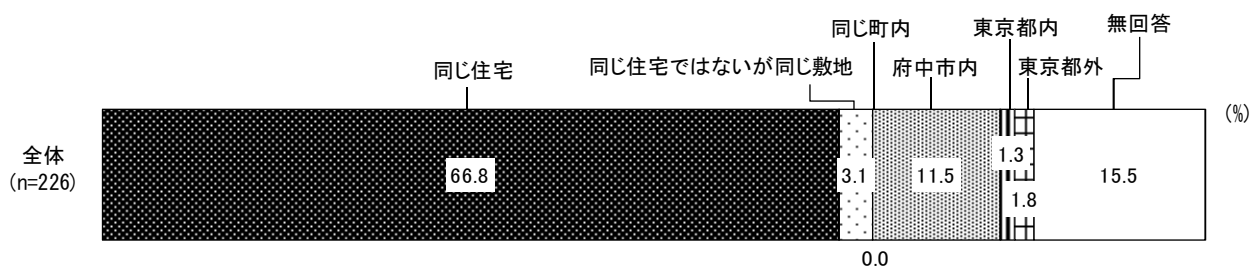
図表6-9-2 主な介護者の年齢 (全体)



(3) 主な介護者の居住地 (問 26)

主な介護者の居住地は、「同じ住宅 (66.8%)」が最も多く、「府中市内 (11.5%)」、「同じ住宅ではないが同じ敷地 (3.1%)」が続いている。(図表6-9-3)

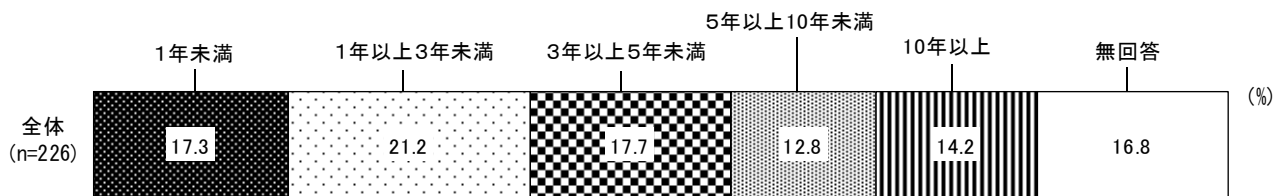
図表6-9-3 主な介護者の居住地 (全体)



(4) 介護している期間 (問 27)

介護している期間は、「1年以上3年未満 (21.2%)」が最も多く、「3年以上5年未満 (17.7%)」、「1年未満 (17.3%)」が続いている。(図表6-9-4)

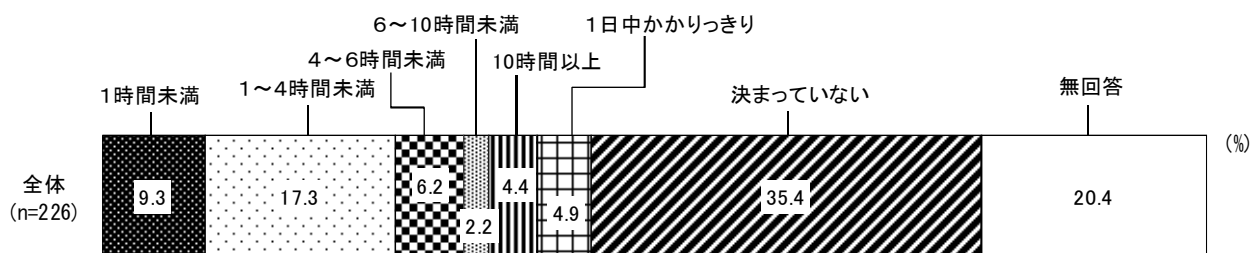
図表6-9-4 介護している期間 (全体)



(5) 1日に介護している平均時間 (問 28)

1日に介護している平均時間は、「決まっていない (35.4%)」が最も多く、「1~4時間未満 (17.3%)」、「1時間未満 (9.3%)」が続いている。(図表6-9-5)

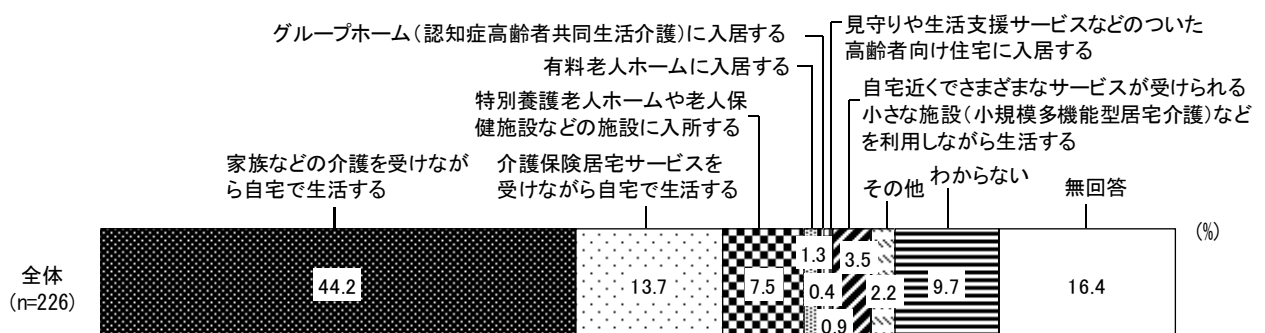
図表6-9-5 1日に介護している平均時間 (全体)



(6) 被介護者が生活するのによいところ (問 29)

被介護者が生活するのによいところは、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する (44.2%)」が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活する (13.7%)」、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する (7.5%)」が続いている。(図表6-9-6)

図表6-9-6 被介護者が生活するのによいところ (全体)



(7) 認知症の診断について

① 認知症の診断の有無 (問 30)

認知症診断の有無は、「受けている」が52.2%、「受けていない」は41.2%となっている。

(図表6-9-7-①)

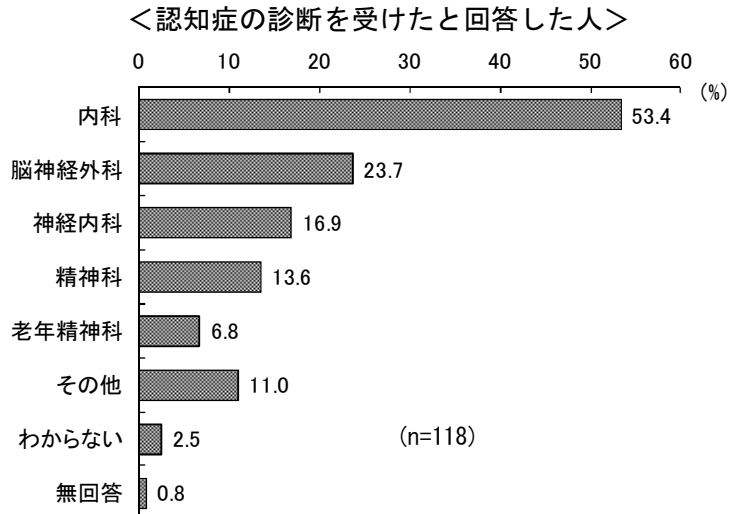
図表6-9-7-① 認知症診断の有無 (全体)



② 診断を受けた診療科 (問 30-1)

医師から認知症の診断を受けた方にたずねたところ、診断を受けた診療科は、「内科 (53.4%)」が最も多く過半数を占めている。次いで、「脳神経外科 (23.7%)」、「神経内科 (16.9%)」が続いている。(図表6-9-7-②)

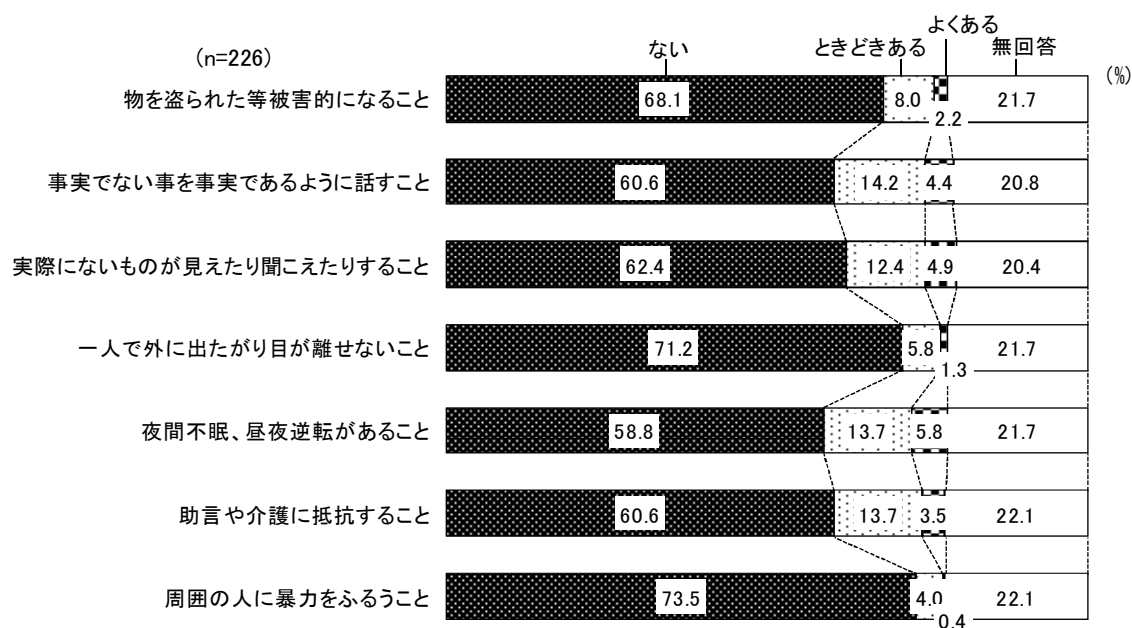
図表6-9-7-② 診断を受けた診療科 (全体：複数回答)



(8) 被介護者に当てはまる症状 (問 31)

被介護者に当てはまる症状は、「ときどきある」と「よくある」を合わせた《ある》は、『夜間不眠、昼夜逆転があること (19.5%)』、『事実でない事を事実であるように話す (こと 18.6%)』、『実際にはないものが見えたり聞こえたりすること (17.3%)』、『助言や介護に抵抗すること (17.2%)』が上位4項目となっている。(図表6-9-8)

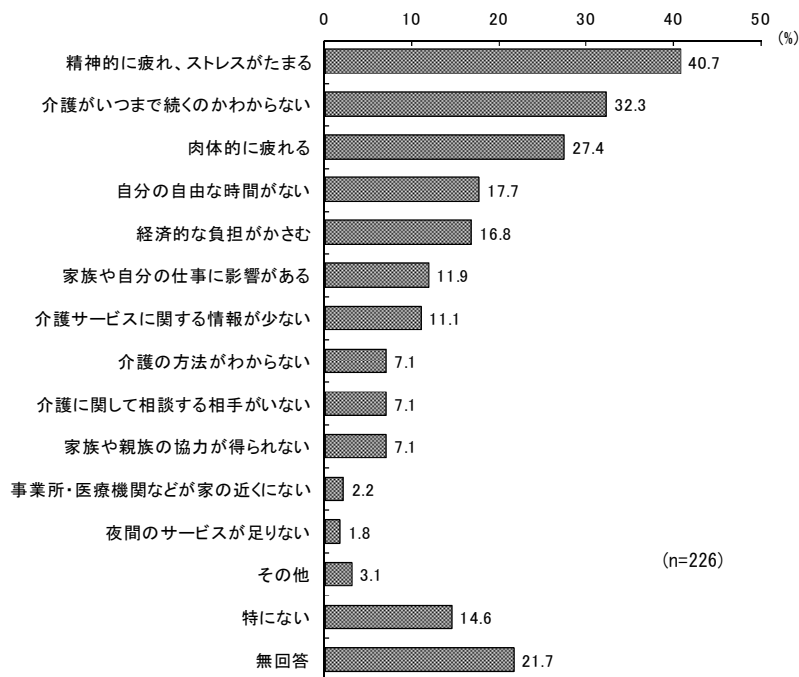
図表6-9-8 被介護者に当てはまる症状 (全体)



(9) 介護をしていくうえでの問題点 (問 32)

介護をしていくうえでの問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる (40.7%)」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない (32.3%)」、「肉体的に疲れる (27.4%)」が続いている。(図表6-9-9)

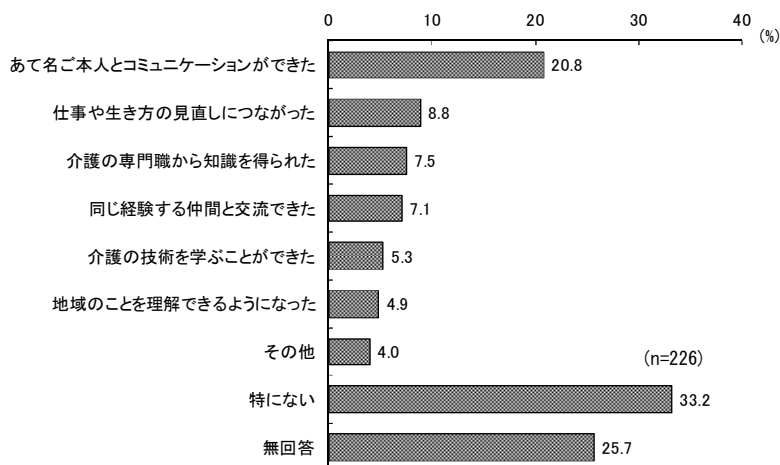
図表6-9-9 介護をしていくうえでの問題点 (全体：複数回答)



(10) 介護をしていて良かったと思うこと (問 33)

介護をしていて良かったと思うことは、「特にない」が 33.2%となっている。良かったことでは、「あて名ご本人とコミュニケーションができた (20.8%)」が最も多く、「仕事や生き方の見直しにつながった (8.8%)」が続いている。(図表6-9-10)

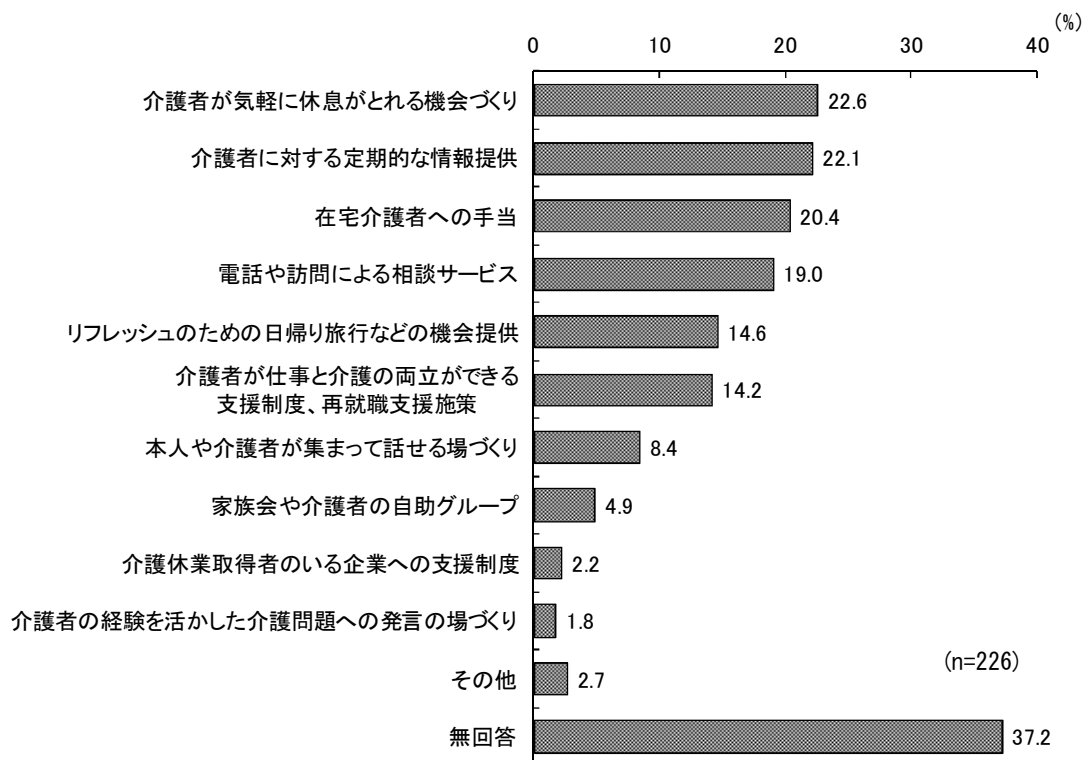
図表6-9-10 介護をしていて良かったと思うこと (全体：複数回答)



(11) 介護者支援として必要と思うもの（問34）

介護者支援として必要と思うものは、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり(22.6%)」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供(22.1%)」、「在宅介護者への手当(20.4%)」が続いている。(図表6-9-11)

図表6-9-11 介護者支援として必要と思うもの（全体：複数回答）



10 自由回答（問 35）

高齢者保健福祉や介護保険について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で49件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

施設設置希望：6件

- ・ これからは子どもを当てにできないので、特別養護老人ホーム（病院併設）を多くつくってほしい。（男性、65～69歳、要介護4）【家族】
- ・ 本人が視力障害で、自宅での生活が難しい。特別養護老人ホームには待ち人数がたくさんで絶望的です。施設が足りないです。（女性、85～89歳、要介護2）【家族】
- ・ 安心して入院していただける療養型病院がないので、家族も安心して入院させられる認知症対応型の療養型病院をつくり、最後まで住み慣れた府中で暮らせるようにしてほしい。それと特別養護老人ホームが少なすぎる。（男性、65～69歳、要介護4）【家族】
- ・ リハビリテーションのできる施設の設置を要望する。（男性、65～69歳、要介護3）【家族】

本人がサービスを利用したがない：5件

- ・ 認知症の母本人に病識がないため、サービスを受け入れられないのが悩み。介護者への暴力もあり、気持ちがすさんでいる。（女性、75～79歳、要介護1）【家族】
- ・ 本人が動けなくなったら受け皿がなくなるから早く（軽いうち）施設に入れたいが、当人は在宅であることを望んでいる。（男性、85～89歳、要支援2）
- ・ 本人が支援サービスを全面拒否する。人の集まる場所へは出たがらない。（男性、70～74歳、要介護3）
- ・ 本人が自宅に他人が入るのを嫌がるため、今まで利用できないでいる。（男性、85～89歳、要介護2）【家族】

これからは不安：6件

- ・ 今は主人を私が看ているが、主人が亡くなれば私を娘が看ることになる。しかし、娘はフルタイムで働いていて独身なので、自分の老後を考えると退社することは出来ません。他人事とは思われない状況です。（男性、75～79歳、要支援2）【家族】
- ・ 介護者は、がん罹患後に退職し、母の認知症が発覚。がん再発の不安とがん手術後の後遺症で、精神的にもうつ状態である。兄は外国にいるので相談相手にならず孤独。無職のため、今後の自分の暮らしも不安。何度も心中を考えた。（女性、75～79歳、要介護1）【家族】
- ・ 介護者自身が足腰が悪く通院しているので、これからは不安です。（男性、70～74歳、要支援2）

情報提供：2件

- ・ 看取りケア在宅医療を支援してくれる地域の医師の情報が知りたい。インターネット等で見ることができるようですが、年なのでできません。（女性、85～89歳、要介護1）【家族】

- ・ コミュニティ紙等で事例紹介などがあるとわかりやすく、家庭でのヒントになります。人から聞く情報だけでなく日常的に目から得る情報があれば、参考になると考えています。（男性、70～74歳、要介護1）【家族】

道路整備：2件

- ・ 道に段差があり、年寄りや通学の生徒たちにとっても危ない状態だと思います。道の整備はできないのでしょうか。（女性、85～89歳、要支援1）
- ・ 坂道歩道の整備、歩道の幅を拡張して、車椅子と往来がスムーズにできるように最小限でもよいので、確認チェックを全道路に早急をお願いしたい。大変なことなら事故の起きそうな箇所からお願いします。（女性、85～89歳、要介護2）【家族】

その他：28件

- ・ 市内に老人病の専門医がないことで困っています。市として、医師会とも相談をして速やかに、専門医ができるよう願います。（女性、80～84歳、要支援1）【家族】
- ・ 去年からひとり暮らしになった。足が不自由。日常生活はできているが、高い所の出し入れ、電球の取り換えなど、その場でその時に手を借りたい事がある。お助けボランティアのような組織をつくってほしい。申し込んで翌日とか2、3日経ってからでなく、すぐに来てくれるようなサービスをお願いしたいです。（女性、80～84歳、要支援1）
- ・ 認知症の公開講座があれば受講したい。（女性、80～84歳、要介護1）【家族】